

# 令和4年度 新潟県立看護大学 自己点検評価報告書

－専任教員の活動業績－  
－各種委員会等の活動報告－

令和5年3月



新潟県立看護大学  
Niigata College of Nursing



## 専任教員の活動業績

## 1 研究、社会及び学内教育活動業績

### (1) 制作要件

「研究活動」と「社会活動」及び「学内教育活動」について、令和4年4月から令和5年3月までの12ヶ月間の期間について、本学の在職各教員から申告のあった国内外における活動（業績）の一覧である。

ア 令和4年12月末日までに退職ないし転職している教員のものは含まない。

イ 原則として、各教員から提出されたものを修正せず掲載する。

ウ 掲載の順番は領域順・科目群順とし、個人は令和5年3月現在の職位順ついで採用順に掲載する。

エ 掲載に際して職位名等はいれず、氏名のみの表示とする。

オ 令和4年4月以降12月までに着任した専任教員の業績についても、ウに従って掲載する。

(2) 活動業績掲載順		小児看護学	大久保 明子……………	35
【共通科目】			山田 恵子……………	37
Ⅰ 人間環境科学領域			伊藤 ひかる……………	39
社会科学	渡辺 弘之……………		小林 宏至……………	40
	徐 淑子……………	母性・助産	常盤 洋子……………	41
情報科学	中村 義実……………	看護学	西田 絵美……………	43
	永吉 雅人……………		西川 美樹……………	44
	エルダトン・サイモン…		八巻 ちひろ……………	45
Ⅱ 自然科学領域			上田 恵……………	46
生物・医学	堀江 正男……………		伊藤 美由紀……………	47
	葛城 美徳……………		五十畑 麻奈美……………	48
【専門科目】		Ⅴ 地域生活看護学領域		
Ⅲ 基礎看護学領域		老年看護学	原 等子……………	49
看護管理学	伊豆上 智子……………		東條 紀子……………	52
	基礎看護学		青山 拓夢……………	53
	岡村 典子……………	精神看護学	谷本 千恵……………	54
	川島 良子……………		佐々木 三和……………	55
	谷内田 潤子……………		船山 健二……………	56
	山岸 美奈子……………		安達 寛人……………	58
	山田 彩乃……………		早藤 夕子……………	59
Ⅳ 臨床看護学領域		地域看護学	高林 知佳子……………	60
成人看護学	石田 和子……………		野口 裕子……………	62
	高柳 智子……………		関 睦美……………	64
	酒井 禎子……………		前川 絵里子……………	65
	樺澤 三奈子……………		久保野 裕子……………	66
	小林 綾子……………			
	石原 千晶……………			
	石岡 幸恵……………			
	相澤 達也……………			
	坂田 智佳子……………			

渡辺 弘之

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(なし)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(1 件)

- 1) Hiroyuki WATANABE, Vu Tuan Anh, Huynh Cong Ai, Tran Xuan Vy, Tran Sy Duy, Tran Quang Tien, Ho Thu Linh. (2022. 11) : ハンセン病元患者の子どもたちが抱える潜在的な脆弱性 (Vulnerability) について, 第 37 回 日本国際保健医療学会学術大会(愛知県立大学長久手キャンパス)

5. その他の研究活動(なし)

**【学会等における活動】**

なし

**【社会活動】**

なし

**【学内教育活動】**

学 部 : 基礎ゼミナール 1, 社会学, 社会福祉概論, ふれあい実習, 地域社会と住民組織, 専門ゼミナール I , 専門ゼミナール II

博士前期課程 : なし

博士後期課程 : なし

**【学内委員会等の活動】**

学生委員会委員, 国際交流委員会委員

学年担任, アウトドアサークル、バンドサークル、ほしみサークル、手話サークル、フットサルサークルサークル顧問

国際交流委員会国際交流セミナー企画作成、講師招聘 (2022 年 6 月) , 国際交流委員会国際交流セミナー企画作成、講師招聘 (2023 年 2 月)

**【外部資金獲得】**

- 1) 渡辺弘之(研究代表者) (2019～2022) : ベトナムのハンセン病元患者の子どもが持つ「傷つきやすさ」とエンパワーメント支援, 科学研究費助成事業(基盤研究 C)

徐 淑子

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(1 件)

- 1) 樽井正義, 徐淑子(2022. 5): ダルクにおける MSM・HIV 陽性者支援の調査-ダルクにおける性的少数者・HIV 陽性者受入の現状と課題に関する質問紙調査-, 厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業「地域において MSM の HIV 感染・薬物使用を予防する支援策の研究」(研究代表者・樽井正義) 令和3 年度総括・分担報告書, 令和3 年度総括・分担報告書, pp89 - 93(査読無)

3 著書(1 件)

- 1) ウィリアム L・ホワイト(著), 回復の顔と声・日本委員会(翻訳)徐淑子他翻訳(2022. 12): “依存症から回復のコミュニティへ 回復者と家族・友人たちによるアドボカシー活動、第8 章回復と経験の多様性について-援助者及び回復擁護運動の活動家のための基礎論-”, 社会評論社(東京)

4 学会発表(1 件)

- 1) 徐淑子(2022. 6): 当事者発信のウェブ・リソースを活用した卒論指導の試案策定, 第36 回日本保健医療行動科学学会学術大会(オンライン開催)

5 その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・ 日本保健医療行動科学学会
- ・ 日本保健医療社会学会
- ・ 日本エイズ学会
- ・ 日本アルコール問題関連学会
- ・ 人と人研究会
- ・ 女性と回復研究会
- ・ 第36 回保健医療行動科学学会大会
- ・ 第19 回仏教看護・ビハラー学会大会

【社会活動】

- ・ NPO 法人ふれあいす東京(会員)
- ・ NPO 法人り・ぼん(会員)
- ・ 新潟ダルク(ニューズレター発行担当)
- ・ 薬草大麻ラボ・ウェブサイト(取材協力および記事提供)

【学内教育活動】

学 部: 基礎ゼミナール2, 専門ゼミナール I, 専門ゼミナール II, 文化人類学, 保健医療行動科学, ふれあい実習

博士前期課程: 健康社会学, 精神看護学援助論 I

博士後期課程: なし

【学内委員会等の活動】

FD 委員会委員, 研究推進委員会委員, 倫理委員会委員, ハラスメント相談員相談員

FD 委員会企画『授業公開』企画・運営担当者, 研究推進委員会『学内共同研究助成成果発表会』企画・運営担当者

【外部資金獲得】

- 1) 徐淑子(研究代表者)  
池田光穂、諏訪茂樹、酒井幸子、黄順姫(2021～2023)：支援プログラムの「しきい」を下げる：薬物使用者の求助行動とサービスアクセスの研究，科学研究費助成事業（挑戦的研究萌芽）
- 2) 徐淑子(研究代表者)  
池田光穂(2018～2022)：ホーム・リダクションと薬物依存者への社会的ケア：東アジアへの影響、移入、展開，科学研究費助成事業(基盤研究C)
- 3) 池田光穂(研究代表者)  
徐淑子、井上大介、山崎スコウ竜二(2020～2022)：スマートメディアユーザーのナルシズム化と新しい孤独の誕生：民族誌的研究，科学研究費助成事業(基盤研究C)
- 4) 樽井正義(研究代表者)  
生島嗣、野坂祐子、徐淑子他(2021～2023)：「地域におけるMSMのHIV感染・薬物使用予防策と支援策の研究」，厚生労働科学研究費補助金疾病・障害対策研究分野 エイズ対策政策研究

中村 義実

1. 原著論文(1 件)

- 1) 中村 義実(2022. 5) : オーセンティックな教材がもたらす教育的効果の考察 - Dennis the Menace が育む自己肯定感, ヒューマニスティック英語教育研究会紀要第 2 号, 2, pp209 - 223(査読有)

2 その他論文(なし)

3 著書(なし)

4 学会発表(なし)

5 その他の研究活動(1 件)

- 1) 前川絵里子、平澤則子、高林千佳子、野口裕子、久保野裕子、中村義実 : 公衆衛生看護学実習における継続的な指導に関する文献研究, 令和 3 年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

- ・ 異文化コミュニケーション学会
- ・ 全国看護英語教育学会
- ・ ヒューマニスティック英語教育研究会

【社会活動】

- ・ 敬和学園大学非常勤講師「言語コミュニケーション論 2」
- ・ 新潟日報「話題ですよ」(2022 年 6 月 12 日) : 『デニス英語の躍動』(著書紹介)
- ・ 新潟県立看護大学看護研究センター主催いきいきサロン講師(2022 年 9 月 15 日)

【学内教育活動】

学 部 : 総合英語Ⅰ・Ⅱ, 英語ライティングⅢ・Ⅳ, 英語リーディングⅣ, 基礎ゼミナール, 専門ゼミナールⅠ・Ⅱ, 新潟学, ふれあい実習

博士前期課程 : なし

博士後期課程 : なし

【学内委員会等の活動】

入試・広報委員会委員長, 教務委員会委員, 入学委員会委員, 研究科委員会委員, 教育研究審議会委員, 入試実施本部会議副委員長

教務委員会主催新カリキュラム意見交換会(2023 年 3 月 14 日)企画および報告

【外部資金獲得】

- 1) 柳田 綾(研究代表者)

加賀田哲也、三浦孝、永倉由里、中村義実、他(2020~2022) : 英語コミュニケーション能力と人間性を高める英語授業の活動・タスク・授業モデル開発, 科学研究費助成事業(基盤研究 C)



1. 原著論文(5 件)

- 1) Masato Nagayoshi, Hisashi Tamaki(2022. 9) : An Approach of Exchanging Work Shifts Using Reinforcement Learning on a Constructive Nurse Scheduling System, Journal of Robotics, Networking and Artificial Life, 9(2), pp154 - 158(査読有)
- 2) 留目宏美, 永吉雅人, 池川茂樹, 大庭重治(2022. 8) : メンタルヘルスに関する問題を抱える児童生徒に対する支援の実態－養護教諭の経験年数及び現任校の勤務年数による比較－, 上越教育大学研究紀要, 42, pp123 - 132(査読有)
- 3) 留目宏美, 永吉雅人, 大庭重治(2023. 2) : メンタルヘルスに関する問題を抱える児童生徒に対する支援の実態－地域の精神医療体制による比較－, 上越教育大学教職大学院研究紀要, 10, pp195 - 204(査読有)
- 4) 野村萌花, 留目宏美, 永吉雅人(2023. 2) : 貧困状態にある子どもに対する校内支援に影響する要因の分析, 上越教育大学教職大学院研究紀要, 10, pp185 - 194(査読有)
- 5) 永吉 雅人, 大久保 明子, 伊藤 ひかる, 境原 三津夫, 大庭 重治(2023. 2) : 児童・生徒の健康状態と学校生活における健康管理支援へのニーズ, 上越教育大学教職大学院研究紀要, 10, pp175 - 183(査読有)

2 その他論文(2 件)

- 1) 永吉雅人(2023. 1) : PS1-PS7:学生ポスターセッション, 電気学会 電子・情報・システム部門 News Letter, 143(1)付録, pp16 - 17(査読無)
- 2) 大久保明子, 伊藤ひかる, 永吉雅人, 境原三津夫(2023. 3) : 学校生活における子どもの健康状態に関する保護者の気がかりと健康管理支援へのニーズ, 新潟県立看護大学紀要, 12, pp17 - 22(査読有)

3 著書(なし)

4 学会発表(7 件)

- 1) Masato Nagayoshi, Hisashi Tamaki(2023. 2) : A dynamic nurse scheduling using reinforcement learning: Dealing with various sudden absences of a nurse, The 2023 International Conference on Artificial Life and Robotics (ICAROB' 23)(on line)
- 2) 永吉雅人, 玉置久(2022. 9) : 強化学習を用いた急な欠勤発生に伴う動的ナース・スケジューリングの試み, 2022 年電気学会電子・情報・システム部門大会(東広島)
- 3) 永吉雅人, 玉置久(2022. 11) : 急な欠勤への対応を考慮した強化学習による動的ナース・スケジューリング, 計測自動制御学会 システム・情報部門 学術講演会(SSI2022)(東大阪)
- 4) 永吉雅人, 玉置久(2022. 11) : 強化学習を用いた動的ナース・スケジューリング: さまざまな急な欠勤への対応, 電気学会 システム・制御合同研究会(京都)
- 5) 永吉雅人, 留目宏美, 大久保明子, 伊藤ひかる, 境原三津夫, 大庭重治 (2022. 12) : 化学物質過敏症の児童・生徒に対する支援の実態および香害に関する児童・生徒とその保護者の認識, 2022 年室内環境学会学術大会(東京)
- 6) 伊藤ひかる, 大久保明子, 永吉雅人, 境原三津夫(2022. 12) : 学校生活における子どもの健康状態に関する保護者の気がかりと健康管理支援へのニーズ, 第 42 回日本看護科学学会学術集会(広島)
- 7) 本田ひとみ, 佐久間あゆ美, 松井弥咲, 小野希里子, 永吉雅人, 酒井禎子, 石川肇(2022. 10) : 関節リウマチ患者における手洗いの実態調査, 第 50 回日本関節病学会(新潟)

5 その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・ 電気学会 電子・情報・システム部門 編修委員会 委員

- ・ 電気学会 電子・情報・システム部門役員会 委員
- ・ 電気学会 論文委員会 (C2 グループ) 委員
- ・ システム制御情報学会
- ・ 計測自動制御学会
- ・ 電気学会
- ・ 室内環境学会
- ・ 日本公衆衛生学会
- ・ 日本精神保健看護学会
- ・ 日本看護科学学会
- ・ "The 2023 International Conference on Artificial Life and Robotics (ICAROB2023), GSI Machine Learning & Neural Network & Artificial Life"
- ・ 2022 年電気学会電子・情報・システム部門大会 大会論文委員会 委員
- ・ 2022 年電気学会電子・情報・システム部門大会 大会委員会 委員
- ・ 2023 年電気学会電子・情報・システム部門大会 大会委員会 委員
- ・ 計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会 2022 SS04 システム・モデリングと最適化技法 オーガナイザ

#### 【社会活動】

- ・ 新潟県立看護大学看護研究交流センター 看護職学習支援公開講座「わかりやすいプレゼンテーション」講師 (VOD 教材)
- ・ NPO 法人 関川水辺クラブ
- ・ NPO 法人 新潟県難病相談支援センター
- ・ 電気学会 電子・情報・システム部門 システム技術委員会 先端システムの超知能化を指向した機械学習技術協同研究委員会 委員
- ・ カナリア・ネットワーク全国(CAN) 賛同人
- ・ 上越教育大学学校教育実践研究センター 教職員のための自主セミナー「特別なニーズを有する子どもたちの学びを問う-心身の健康づくりに着目して-」のオンライン開催 (2022. 12. 21) において企画・実行を「通級による指導の教育課程における学校保健情報の活用に関する基礎的研究」研究チームのメンバーとして担った。
- ・ 室内環境学会環境過敏症分科会 幹事
- ・ 生活環境と健康研究会 幹事

#### 【学内教育活動】

学 部：情報処理演習, 情報科学, 疫学, ふれあい実習, 基礎ゼミナール, 保健統計演習, ボランティア活動, 人間工学

博士前期課程：看護情報統計学

博士後期課程：なし

#### 【学内委員会等の活動】

情報ネットワーク特別委員会委員長, 情報ネットワーク実行部会委員長, 研究推進委員会副委員長, 入試・広報委員会委員

水研究, ソフトテニス, バスケットボールサークル顧問

#### 【外部資金獲得】

1) 永吉雅人(研究代表者)

(2019~2022)：強化学習によるメンバーシップ向上に寄与する共創的ナース・スケジューリングシステム, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

2) 大庭重治(研究代表者)

葉石光一，笠原芳隆，八島猛，佐藤将朗，坂口嘉菜，上野光博，留目宏美，池川茂樹，境原三津夫，大久保明子，高柳智子，永吉雅人(2020～2022)：健康管理に特別な配慮を必要とする子どもの教育的支援に関する地域連携モデルの構築，科学研究費助成事業(基盤研究B)

3 留目宏美(研究代表者)

藤井和子，関原真紀，池川茂樹，永吉雅人，岩本佳世，内海まゆみ(2021～2022)：通級による指導の教育課程における学校保健情報の活用に関する基礎的研究，令和3年度上越教育大学研究プロジェクト

エルダトン・サイモン

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(なし)
5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・ The Japan Association of Language Teachers
- ・ College and University Education SIG
- ・ Pragmatics SIG
- ・ 日本遺伝看護学会
- ・ 全国看護英語教育学会
- ・ 22q11.2 Society
- ・ Conversation Analysis Network-Kanto 委員

【社会活動】

- ・ NPO 法人親子の未来を支える会第6回 22q11.2 Nagano Zoo ふれあいWeb 交流会
- ・ NPO 法人親子の未来を支える会 22q11.2 就学サポート アドバイザー
- ・ 他大学・機関の教員の多数の研究の翻訳および英語の指導
- ・ 上越教育大学で非常勤講師
- ・ 日本キリスト者医科連盟(JCMA: Japan Christian Medical Association)の月刊誌「医学と福音」の英文監修

【学内教育活動】

学 部：コミュニケーション英語ⅠA, コミュニケーション英語ⅠB, コミュニケーション英語ⅡA, コミュニケーション英語ⅡB, コミュニケーション英語Ⅲ, 基礎ゼミナール4, ふれあい実習, 英語コミュニケーションⅢ, 英語コミュニケーションⅣ, 国際看護演習, ボランティア活動, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

国際交流委員会副委員長, 学生委員会副委員長, 紀要委員会委員

バレーボール、吹奏楽団サークル顧問

国際交流セミナー 「世界に羽ばたいた先輩たち」, 国際交流セミナー 「日本語でのやりとりが困難な外国籍住民への医療支援・サポート」

【外部資金獲得】

- 1) 北村千章(研究代表者)

エルダトン サイモン、中込さと子、榎本淳子、桐生徹、稲葉雄二、石黒浩毅、早川統子、室亜衣(2019～2023)：就学中の22q11.2欠失症候群の子どもの教育者と医療者の協働に関する研究，科学研究費助成事業(基盤研究C)

2) 境原三津夫(研究代表者)

エルダトン サイモン(2018～2023)：小児病院におけるファシリティドッグ導入促進のために—細菌学的視点からみた安全性—, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

堀江 正男

1. 原著論文(2 件)

- 1) 堀江正男(2022. 5) : 神経系の伝導路解析法, 新潟県医師会報, 866 号, pp2 - 8(査読無)
- 2) Yoshioka N, Kurose M, Yano M, Tran DM, Okuda S, Mori-Ochiai Y, Horie M, Nagai T, Nishino I, Shibata S, Takebayashi H(2022. 8) : Isoform-specific mutation in Dystonin-b gene causes late-onset protein aggregate myopathy and cardiomyopathy. eLife, 11, ppe78419(査読有)

2. その他論文(なし)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(1 件)

- 1) Masaki Sonoda, Hisao Aimi, Keisuke Kawasaki, Haruo Toda, Shinobu Hirai, Masao Horie, Reiko Meguro, Haruo Okado, Shigeki Kameyama, Tetsuya Yamamoto and Isao Hasegawa (2022.12) : Transient cognitive dysfunction associated with Hypothalamic Hamartoma Syndrome is caused by epileptic discharges propagating to the thalamic mediodorsal nucleus in a time-specific manner, 米国てんかん学会(Nashville, USA)

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・ 日本解剖学会 代議員

【社会活動】

- ・ 新潟大学医学部医学科 人体の構造と機能 II 非常勤講師
- ・ 新潟大学大学院医歯学総合研究科 客員研究員
- ・ 南相馬市における高等教育機関連携事業『新たな学校づくりプロジェクト』 原町第三中学校講義

【学内教育活動】

学 部 : 形態機能学 I, 形態機能学 II, 基礎生物化学, 基礎ゼミナール, ふれあい実習

博士前期課程 : 疫学

博士後期課程 : なし

【学内委員会等の活動】

災害時看護支援特別委員会委員長, 図書委員会委員長, 入試広報委員会副委員長

災害時看護支援特別委員会研修会コーディネーター

【外部資金獲得】

なし

葛城美德

1. 原著論文(1件)

- 1) Masahiro Fujii, Kanako Watanabe, Tomoichiro Oka, Hirotaka Takagi, Sergei Anisimov, Shun-ichi Yamashita, Yoshinori Katsuragi, Masahiko Takahashi, Masaya Higuchi, Tomotake Kanki, and Akihiko Saitoh(2023.3) : Myeloid-associated differentiation marker is an essential host factor for human parechovirus PeV-A3 entry, Nature Communications, 1, pp1(査読有)

2. その他論文(なし)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(なし)

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

- ・ 上越教育大学 研究倫理審査委員会 委員

【学内教育活動】

学 部：臨床生化学, 感染学, 臨床栄養学, 基礎生物化学, 基礎ゼミナール8, ふれあい実習

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

研究推進委員会委員長, 国際交流委員会委員, 倫理委員会委員

【外部資金獲得】

- 1 葛城美德(研究代表者)

野中隆(2020~2022) : アグリソームによる $\alpha$ シヌクレインのプリオン様増殖抑制機構, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

伊豆上 智子

1. 原著論文(1 件)

- 1) 前田樹海, 北島泰子, 伊豆上智子, 望月聡一郎(2022. 7) : 看護師の世代による就業行動の違い: 衛生行政報告例の分析から, 日本医療情報学会看護学術大会論文集, 23, pp111 - 114(査読有)

2. その他論文(1 件)

- 1) 伊豆上智子, 大河内敦子, 林さとみ(2023. 3) : 看護学科海外交流プログラムにおけるグローバル人材育成上の課題, 帝京大学医療技術学部紀要, 第 8・9 号, pp27 - 36(査読有)

3. 著書(2 件)

- 1) 秋山 智弥, 木村 チヅ子, 中西 睦子, 他 23 名 (2022. 4) : “看護管理学習テキスト第 3 版第 2 巻看護サービスの質管理 2021 年版, 第 6 章 看護サービスの質管理と記録 論点 2: 臨床現場の看護情報の特徴と活用”, 日本看護協会出版会(東京)
- 2) 荒井 俊行, 伊豆上 智子, 井上 智子, 他 13 名 (2022. 11) : “看護業務をめぐる法律相談, 安全で質の高い看護を効果的・効率的に提供するための看護チームのあり方とは, 他 17 題”, 新日本法規出版株式会社(東京)

4. 学会発表(2 件)

- 1) 前田樹海, 北島泰子, 伊豆上智子, 望月聡一郎(2022. 7) : 看護師の世代による就業行動の違い 衛生行政報告例の分析から, 第 23 回日本医療情報学会看護学術大会(長崎県)
- 2) 伊豆上 智子(2022. 8) : A 大学看護学士課程の授業科目「リーダーシップ論」を履修した学生が捉えたフォローアップ, 第 26 回日本看護管理学会学術集会(福岡県)

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

- ・ 上越市情報公開・個人情報保護制度等審議会委員
- ・ 長野県看護協会 2022 年度認定看護管理者教育課程(セカンドレベル)「質管理Ⅱ(看護サービスの質管理)」講師
- ・ 新潟県看護協会 2022 年度認定看護管理者教育課程(セカンドレベル)「質管理Ⅱ(看護サービスの質管理)」講師
- ・ 国立病院機構 2022 年度認定看護管理者教育課程(セカンドレベル)「医療・看護におけるクオリティマネジメント(エビデンスを用いた質管理)」講師
- ・ 新潟県看護協会 2022 年度一般研修「看護マネジメント」講師
- ・ 令和 4 年度新潟県看護教員養成講習会「看護教育課程演習」講師
- ・ 伊豆上 智子. (2022). 【新時代を切り開く看護の未来】発展著しい最先端の情報技術が看護の未来をどのように変えていくのか. 看護技術, 68(14), 1374-1378.
- ・ A 県内の病院における看護研究への取り組みに関する研究
- ・ 確認不足によるインシデントの分析と対策

【学内教育活動】

学 部 : 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ, 看護管理, 総合科目, 人間工学

博士前期課程 : 看護管理学特論, 看護学研究法

博士後期課程 : なし



**【学内委員会等の活動】**

紀要委員会委員長, 入試・広報委員会副委員長, 看護研究交流センター看護職学習支援部門長

**【外部資金獲得】**

1) 前田樹海(研究代表者)

伊豆上智子, 望月聡一郎, 北島泰子(2022～2025) : 出生年による看護師の就業行動の差とその要因, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

岡村 典子

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(2 件)

- 1) 岡村典子、山岸美奈子(2023. 3) : Literature review on physical assessment education in Japanese nursing universities, EAFONS 2023(東京)
- 2) 山岸美奈子、岡村典子(2023. 3) : A Literature Review of Nurses` Physical Assessment Practices in Japanese Hospitals, EAFONS 2023(東京)
5. その他の研究活動(2 件)
  - 1) 樺澤三奈子、相澤達也、山岸美奈子、酒井禎子、岡村典子、坂田智佳子、高柳智子：クリティカルケア看護における臨床推論の特徴とその教育方法に関する文献研究 ―看護基礎教育プログラムの構築をめざして―、令和3年度 新潟県立看護大学学内共同研究助成
  - 2) 酒井禎子、相澤達也、坂田智佳子、樺澤三奈子、高柳智子、山岸美奈子、岡村典子、堀江正男、境原三津男、村松卓弥、長井卓也：クリティカルケアにおける「臨床推論力」を育成する看護基礎教育プログラムの構築、令和4年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

- ・ 日本看護科学学会
- ・ 日本看護学教育学会
- ・ 日本看護研究学会
- ・ 日本看護技術学会
- ・ 日本カウンセリング学会
- ・ 日本カウンセリング学会カウンセリング心理士会
- ・ 日本心身医学会
- ・ 日本在宅ケア学会
- ・ 仏教看護・ビハーラ学会
- ・ 東京医科歯科大学お茶の水医学会
- ・ 聖路加看護学会
- ・ 日本精神保健看護学会
- ・ 日本看護管理学会
- ・ お茶の水看護学会
- ・ 新潟看護ケア研究学会 査読委員
- ・ 第53回(2022年度)日本看護協会学術集会 抄録選考委員

【社会活動】

- ・ 新潟県立中央病院看護部教育アドバイザー
- ・ 厚生連上越総合病院 看護師特定行為研修管理委員会 外部委員
- ・ 新潟県厚生連主催「看護教育研修Ⅲ リーダーシップ研修」、講師
- ・ 令和4年度 新潟県看護教員養成講習会 講師 担当科目：看護論演習
- ・ 令和4年度 新潟県看護教員養成講習会運営委員会 運営委員
- ・ 新潟県立中央病院 新人看護師メンタルヘルス研修、第1回から第3回、講師

- ・ 新潟県看護協会 新人看護職員研修における教育担当者研修、講師
- ・ A 県内の病院における看護研究実施状況および支援体制に関する実態調査
- ・ 当院のコロナ専用病棟に勤務する看護師の身体的・精神的影響に関する実態調査

#### 【学内教育活動】

学 部：看護学概論，看護援助論Ⅰ，基礎看護技術演習Ⅰ，基礎看護学演習Ⅱ（新カリ），基礎看護学技術演習Ⅱ（旧カリ），基礎看護学実習Ⅰ，基礎看護学実習Ⅱ，専門ゼミナールⅠ，専門ゼミナールⅡ，総合実習，ライフステージと看護

博士前期課程：看護理論，基礎看護学看護援助論Ⅱ，基礎看護学特別演習，基礎看護学特別研究，フィジカルアセスメント，看護研究法，看護コンサルテーション論，がん看護学特別演習Ⅰ

博士後期課程：なし

#### 【学内委員会等の活動】

教務委員会委員長，ハラスメント防止特別委員会委員，自己点検・評価特別委員会委員，教学委員会委員，看護研究交流センター特別研究部門長

ハンドマッサージ、茶道サークル顧問

#### 【外部資金獲得】

1) 岡村典子(研究代表者)

(2017～2023)：感情を的確にマネジメントする為のスキル習得に向けた看護管理者向けプログラムの構築，科学研究費助成事業(基盤研究C)

川島 良子

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(1 件)

1) 川島 良子、西田絵美(2022. 5)：基礎看護学における講義・演習で学生が学んだことに関する文献検討, THE KITAKANTO MEDICAL JOURNAL, 72 (2) , pp229 - 235(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(なし)

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・ 日本看護研究学会 会員
- ・ 日本看護学教育学会 会員
- ・ 日本看護科学学会 会員
- ・ 日本教師学学会 会員
- ・ 日本協同教育学会 会員
- ・ 聖路加看護学会 会員
- ・ 北関東医学会 会員
- ・ 日本看護協会 会員

【社会活動】

- ・ 新潟県立糸魚川高等学校 出前講義

【学内教育活動】

学 部：看護学概論, 基礎看護技術演習Ⅱ, 基礎看護技術演習Ⅱ（新カリ）, 基礎看護技術演習Ⅰ, 基礎看護学実習Ⅰ（新カリ）, 基礎看護学実習Ⅱ, 総合実習

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

災害時看護支援特別委員会委員, 実習委員会委員, 国家試験対策・就職委員会委員, 看護研究交流センター地域社会貢献部門員

【外部資金獲得】

なし

谷内田 潤子

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(なし)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(1 件)

1) 谷内田潤子(2022. 12)：糖尿病患者の療養継続に向けた受診勧奨に関する文献検討，日本看護科学学会(広島)

5. その他の研究活動(なし)

**【学会等における活動】**

- ・ 日本看護科学学会
- ・ 日本慢性看護学会
- ・ 日本糖尿病学会

**【社会活動】**

なし

**【学内教育活動】**

学 部：基礎看護技術演習Ⅰ，基礎看護技術演習Ⅱ（旧カリキュラム），基礎看護技術演習Ⅱ（新カリキュラム），基礎看護学実習Ⅰ，基礎看護学実習Ⅱ，総合実習，専門ゼミナールⅠ，専門ゼミナールⅡ

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

**【学内委員会等の活動】**

学生委員会委員，国家試験対策・就職委員会委員，看護研究交流センター地域課題研究開発部門員

**【外部資金獲得】**

なし

山岸 美奈子

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(なし)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(2件)

- 1) 山岸美奈子、岡村典子(2023.3): A Literature Review of Nurses' Physical Assessment Practices in Japanese Hospitals, EAFONS2023(東京)
- 2) 岡村典子、山岸美奈子(2023.3): Literature review on physical assessment education in Japanese nursing universities, EAFONS 2023(東京)

5. その他の研究活動(2件)

- 1) 樺澤三奈子, 相澤達也, 山岸美奈子, 酒井禎子, 岡村典子, 坂田智佳子, 高柳智子: クリティカルケア看護における臨床推論の特徴とその教育方法に関する文献研究—看護基礎教育プログラムの構築をめざして—, 令和3年度新潟県立看護大学学内共同研究助成
- 2) 酒井禎子, 相澤達也, 坂田智佳子, 樺澤三奈子, 高柳智子, 山岸美奈子, 岡村典子, 堀江正男, 境原三津男, 村松卓弥, 長井卓也: クリティカルケアにおける「臨床推論力」を育成する看護基礎教育プログラムの構築, 令和4年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

- ・ 日本看護学教育学会
- ・ 北関東医学会

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

学 部: 看護援助論Ⅰ, 基礎看護技術演習Ⅰ, 基礎看護技術演習Ⅱ, 基礎看護技術演習Ⅱ(新カリ), 基礎看護学実習Ⅰ, 基礎看護学実習Ⅱ, 総合実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ

博士前期課程: なし

博士後期課程: なし

【学内委員会等の活動】

入試・公報委員会委員, ハラスメント防止特別委員会委員

保健指導員, 合唱, NHD サークル顧問

【外部資金獲得】

なし

山田 彩乃

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(なし)
5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

学 部：基礎看護技術演習Ⅰ, 基礎看護技術演習Ⅱ(新カリ), 基礎看護技術演習Ⅱ(旧カリ), 基礎看護学実習Ⅰ, 基礎看護学実習Ⅱ, 看護学概論, 看護援助論Ⅰ, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ, 総合実習, ライフステージと看護

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

看護研究交流センター看護職学習支援部門員

【外部資金獲得】

なし

石田 和子

1. 原著論文(3 件)

- 1) 尾崎昌宜、長友孝文、石田和子、酒井禎子、宇田優子(2022. 8) : “医療領域における次世代型「臨床薬理学教育」への提案-疾患から薬物を選択し学習する”, 応用薬理, 102, pp75 - 80(査読有)
- 2) Kiyoko KandaKazuko IshidaAyumi KyotaChiaki IshiharaKeiko FujimotoMai Hosokawa Ruka Mochizuk(2023. 2) : “Randomized clinical trial quantifying the effectiveness of a self-monitoring intervention, in cancer patients with peripheral neuropathy: A quantitative study”, Asia-Pacific Journal of Oncology Nursing, Published online, pp20 - 30(査読有)
- 3) 川田智美、石田和子(2023. 3)  
骨髄異形症候群患者のコントロール感覚を維持・高める要素:新潟県看護ケア研究学会誌 vol. 9, ppl - 10(査読有)

2. その他論文(1 件)

- 1) 小林綾子、樺澤三奈子、石岡幸恵、坂田智佳子、石田和子(2023. 3)  
新潟県版塩分チェックリストと簡易型自記式食事歴訪質問票による推定食塩摂取量の 関係-推定食塩摂取量の実態をふまえた新潟県民における腎症発症・進行予防指導の検討-  
新潟看護ケア研究学会誌  
vol. 9, pp29 - 35(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(8 件)

- 1) 真野登子、石田和子、樺澤三奈子(2023. 2) : ティッシュエキスパンダーを用いて一次乳房再建術を受けた乳がん患者の術式選択に至る意思決定プロセス, 第 37 回日本がん看護学会(横浜)
- 2) 佐藤純子、石田和子(2023. 2) : がん告知を受けた後期高齢者の受け止めと対処, 第 37 回日本がん看護学会(横浜)
- 3) 横山諭、石田和子(2023. 2) : Oxaliplatin を含む化学療法による末梢神経障害を有する患者の日常生活上の困難と対処, 第 37 回日本がん看護学会(横浜)
- 4) 東條 律子、酒井 禎子、石田 和子(2023. 2) : サービス付き高齢者向け住宅で緩和ケアを受ける高齢がん患者の希望, 第 37 回日本がん看護学会(横浜)
- 5) 須田 侑梨香、中西 麻衣子、黒岩 恵理子、酒井 禎子、石田 和子(2023. 2) : 転移性骨腫瘍で疼痛がある患者について症状マネジメントにて介入した事例, 第 37 回日本がん看護学会(横浜)
- 6) 黒岩 恵理子、中西 麻衣子、須田 侑梨香、石田 和子(2023. 2) : 化学療法により口腔粘膜炎を呈した乳がん患者へ IASM(症状マネジメントモデル)を用いた疼痛緩和の看護実践, 第 37 回日本がん看護学会(横浜)
- 7) 中西麻衣子、須田侑梨香、黒岩恵理子、石田和子(2023. 2) : 軟骨肉腫にて骨盤半裁術の提案された患者の不安に対する看護介入 アギュララの危機理論を用いて, 第 37 回日本がん看護学会(横浜)
- 8) 樋口伸子、小木学、桜井明仁、穴沢こずえ、太田千尋、青木正貴、春川美香、柴田陽子、石田和子(2022. 7) : 新型コロナウイルスの状況下における終末期がん患者の海外帰国ができた調整の効果 Pallative Care Reseach(神戸)

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・ 日本がん看護学会 評議委員会
- ・ 日本がん看護学会 査読委員
- ・ 日本死の臨床研究会関東甲信越地区 役員



- ・ 日本がん看護学会 地方分科会委員会
- ・ 群馬緩和医療研究会
- ・ JCAP（上越がんプロジェクト）
- ・ 新潟がん看護研究会

#### 【社会活動】

- ・ 本庄児玉看護専門学校（2年）看護研究の基礎（質的研究）講師
- ・ 本庄児玉看護専門学校（2年）看護研究の基礎（事例研究）講師
- ・ 本庄児玉看護専門学校（2年）看護研究の基礎（介入研究他）講師
- ・ 本庄児玉看護専門学校（3年）看護研究の基礎 最終論文およびまとめ方 講師

#### 【学内教育活動】

学 部：成人看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ, 成人看護学演習, 専門ゼミナールⅠ・Ⅱ, 成人看護学実習, 総合科目, 家族看護論, ライフステージと看護

博士前期課程：看護学研究法, 看護コンサルテーション論, 病態生理学, 臨床薬理学, 看護倫理学特論, がん看護学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ, 看護教育学, がん看護学特別演習Ⅰ・Ⅱ, がん治療看護介入演習Ⅰ・Ⅱ, がん高度実践看護学実習Ⅰ・Ⅱ, がん高度実践看護学実習Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ, 専門分野別課題研究, 看護学領域別特別研究

博士後期課程：看護学教育論, 成人・がん看護学特論, 看護学特別研究

#### 【学内委員会等の活動】

研究科委員会委員長, 教学委員会委員長, 大学院教育課程検討委員会委員委員長, 図書委員会副委員長, 自己点検委員

#### 【外部資金獲得】

- 1) 石田和子(研究代表者)  
石田順子 石岡幸恵 神田清子 石原千晶 佐藤充子 他(2022～2025)：大腸がん患者の健康管理行動を活性化する在宅型継続支援モデルの開発と効果, 科学研究費助成事業(基盤研究B)
- 2) 坂田智佳子(研究代表者)  
石田和子(2022～2026)：在宅療養への移行をつなぐ終末期がん患者の地域包括型看護ケアプログラム構築, 科学研究費助成事業(基盤研究C)
- 3) 渡邊たつよ(研究代表者)  
北村千章 石田和子(2020～2024)：潰瘍性大腸炎患者のその人らしさを支える総合支援アセスメントモデルの開発とその検証, 科学研究費助成事業(基盤研究C)
- 4) 石原千晶(研究代表者)  
石岡幸恵 相澤達也 石田和子(2020～2022)：分子標的薬治療による皮膚障害に対する生活支援マネジメントモデルの開発, 科学研究費助成事業(基盤研究C)
- 5) 川田智美(研究代表者)  
佐藤充子 石田和子(2019～2022)：がん化学療法患者の社会生活を支えるコントロール感覚獲得支援モデルの開発とその評価, 科学研究費助成事業(基盤研究C)
- 6) 渡邊千春(研究代表者)  
石田和子(2018～2022)：通院治療を継続する高齢独居がんサバイバーが持つ生活調整力の解明, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

高柳 智子

1. 著論文(なし)

2. その他論文(1 件)

- 1) 高柳智子(2023. 2) : ベッド・車椅子間移乗時に転倒した回復期脳卒中患者に対して、「一人での移乗を続けてよい」と判断する看護師の判断視点の因子構造, 日本看護研究学会雑誌, 45(5), pp951 - 958(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(2 件)

- 1) 高柳智子(2022. 7) : 脳震盪により救急外来受診後に帰宅する児童生徒とその家族に対する看護実践および学校との連携状況, 第 49 回日本脳神経看護研究学会(東京)
- 2) 涌井幸恵, 笹川亜依, 平山理恵, 高柳智子, 相澤達也(2022. 10) : 3 次救急医療施設における一般病棟での急変事例の現状分析, 第 24 回日本救急看護学会学術集会(東京)

5. その他の研究活動(1 件)

- 1) 樺澤三奈子, 相澤達也, 山岸美奈子, 酒井禎子, 岡村典子, 坂田智佳子, 高柳智子 : クリティカルケア看護における臨床推論の特徴とその教育方法に関する文献研究-看護基礎教育プログラムの構築をめざして-, 令和 4 年度学内共同研究助成

【学会等における活動】

- ・ 日本リハビリテーション看護学会 査読委員
- ・ 新潟看護ケア学会

【社会活動】

- ・ 上越地域消防事務組合情報公開・個人情報保護制度審議会

【学内教育活動】

学 部 : ライフステージと看護, 成人看護学Ⅰ, 成人看護学Ⅱ, 成人看護学Ⅲ, 成人看護学Ⅳ, 看護倫理, 健康医療政策論, 人間工学, 成人看護学演習, 成人看護学実習, 総合実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ

博士前期課程 : 看護学研究法

博士後期課程 : 看護学研究法Ⅱ, 成人・がん看護学特論

【学内委員会等の活動】

学生委員会委員長, 大学院入学委員会委員長, 大学院教学委員会副委員長, 大学院教育課程検討委員会委員  
臨床指導者研修会講師

【外部資金獲得】

- 1) 高柳智子(研究代表者)

(2019～2022) : 回復期脳卒中患者の病棟生活 21 時間の移乗を支える生活者目線の看護支援モデルの開発, 科学研究費助成事業(基盤研究 C)

2) 大庭重治(研究代表者)

八島猛、留目宏美、境原三津夫、佐藤将朗、池川茂樹、坂口嘉菜、葉石光一、笠原芳隆、大久保明子、永吉雅人、上野光博、高柳智子(2020～2022)：健康管理に特別な配慮を必要とする子どもの教育的支援に関する地域連携モデルの構築, 科学研究費助成事業(基盤研究B)

酒井 禎子

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(1 件)

- 1) 尾崎目宣, 長友孝文, 石田和子, 酒井禎子, 宇田優子(2022.8): 医療領域における次世代型「臨床薬理学教育」への提案 疾患から薬物を選択し学習する応用薬理, 102 (5/6), pp75 - 80(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(4 件)

- 1) 本田 ひとみ, 佐久間 あゆ美, 松井 弥咲, 小野 希里子, 永吉 雅人, 酒井 禎子, 石川 肇(2022.10): 関節リウマチ患者における手洗いの実態調査, 第 50 回日本関節病学会(新潟市)
- 2) 佐居由美, 山田雅子, 西本 葵, 安藤和美, 桃井雅子, 小高恵実, 酒井禎子, 相澤達也(2022.12): 包括的安楽ケアモデルの構築にむけた取り組み～各看護領域の熟練看護師が実践する「安楽」なケア～【交流集会】, 第 42 回日本看護科学学会学術集会(広島市)
- 3) 須田侑梨香, 中西麻衣子, 黒岩恵理子, 酒井禎子, 石田和子(2023.2): 転移性骨腫瘍で疼痛がある患者について症状マネジメントにて介入した事例, 第 37 回日本がん看護学会学術集会(横浜市)
- 4) 東條律子, 酒井禎子, 石田和子(2023.2): サービス付き高齢者向け住宅で緩和ケアを受ける高齢がん患者の希望, 第 37 回日本がん看護学会学術集会(横浜市)

5. その他の研究活動(1 件)

- 1) 酒井禎子, 相澤達也, 坂田智佳子, 樺澤三奈子, 高柳智子, 山岸美奈子, 岡村典子, 堀江正男, 境原三津夫, 村松卓弥, 長井卓也, クリティカルケアにおける「臨床推論力」を育成する看護基礎教育プログラムの構築, 令和 4 年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

- ・ 日本看護科学学会
- ・ 日本がん看護学会 代議員
- ・ 日本緩和医療学会 ELNEC-J コアカリキュラム WPG 員長
- ・ 日本死の臨床研究会 世話人
- ・ 聖路加看護学会
- ・ 日本在宅ケア学会
- ・ 日本老年看護学会
- ・ 日本放射線看護学会
- ・ 日本看護シミュレーションラーニング学会
- ・ 新潟看護ケア研究学会
- ・ 第 27 回聖路加看護学会学術大会

【社会活動】

- ・ 上越地域人生の最終段階における医療・ケア協議会委員, 実行委員会委員
- ・ 一般財団法人 新潟県地域医療推進機構 魚沼基幹病院 看護部特任教育コーディネーター
- ・ 第 10 回日本緩和医療学会緩和ケア基礎セミナー ファシリテーター
- ・ 令和 4 年度新潟県立がんセンター新潟病院 ELNEC-J コアカリキュラム看護師教育プログラム 講師・ファシリテーター
- ・ 第 26 回 ELNEC-J コアカリキュラム指導者養成プログラム講師・ファシリテーター
- ・ 第 10 回 ELNEC-J コアカリキュラム看護師教育プログラム in 上越 講師・ファシリテーター

- ・ 第9回新潟月1緩和ケア勉強会 Web「地域に広げようアドバンス・ケア・プランニングー上越地域の取り組み」 演者
- ・ 日本がん看護学会地方分科会5地域主催「高齢がん患者の意思決定支援」研修会 ファシリテーター
- ・ 2022年度ELNEC-J コアカリキュラム指導者フォローアップ研修会 ファシリテーター
- ・ ELNEC-J コアカリキュラム看護師教育プログラム in KANAGAWA 2023 講師・ファシリテーター
- ・ 看護研究交流センター出前講座「“人生会議”を始めてみませんか？」講師
- ・ 看護教育のための情報サイト「NurSHARE」 “リレー企画「あの頃の自分へ」” 「第4回：聖路加で育ち、新潟県立看護大学とともに歩んできたわたしへ」
- ・ A 病院壮年期女性看護師の骨密度と骨粗鬆症に関連した知識、生活習慣に関する実態調査

#### 【学内教育活動】

学 部：成人看護学Ⅰ, 成人看護学Ⅱ, 成人看護学Ⅲ, 成人看護学演習, 成人看護学実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ, 総合実習, 看護倫理

博士前期課程：がん看護学特論Ⅰ, がん看護学特論Ⅱ, がん看護学特別演習Ⅰ, がん治療看護介入演習Ⅰ, がん高度実践看護学実習Ⅰ, がん高度実践看護学実習Ⅱ, がん高度実践看護学実習Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ

博士後期課程：成人・がん看護学特論

#### 【学内委員会等の活動】

実習委員会委員長, 教務委員会委員, 国家試験対策・就職委員会委員, ハラスメント防止特別委員会委員  
VSP サークル顧問, 国家試験対策セミナー講師

#### 【外部資金獲得】

- 1) 酒井禎子(研究代表者)  
(2018～2023)：化学放射線療法を行う高齢がん患者の「食べて動ける力」を支える集学的ケアモデル構築, 科学研究費助成事業(若手研究)
- 2) 本城由美(研究代表者)  
西本葵, 山田雅子, 中山和弘, 酒井禎子, 小高恵実, 桃井雅子, 相澤達也(2018～2023)：実践知を基盤とした「安楽」をもたらす包括的コンピテンシー・プログラムの開発, 科学研究費助成事業(基盤研究B)
- 3) 酒井禎子(研究代表者)  
坂田智佳子, 樺澤三奈子(2021～2024)：地方都市の高齢がん患者の「食べて動ける力」を支える集学的ケアモデルの臨床評価, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

樺澤 三奈子

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(1 件)

- 1) 小林綾子、樺澤三奈子、石岡幸恵、坂田智佳子、石田和子(2023. 3) : 新潟県版塩分チェックリストと簡易型自記式食事歴訪質問票による推定食塩摂取量の関係―推定食塩摂取量の実態をふまえた新潟県民における腎症発症・進行予防指導の検討, 新潟看護ケア研究学会誌, 9, pp29 - 35(査読有)

3. 著書(1 件)

- 1) 樺澤三奈子(2023. 3) : “NiCE 成人看護学 急性期看護 1 概論・周手術期看護 改訂第4版, 第Ⅶ症事例で考える周手術期看護 4. 接種機能の再確立―食道切除術”, 南江堂(東京)

4. 学会発表(2 件)

- 1) 真野登子、樺澤三奈子、石田和子(2023. 2) : ティッシュエクスパンダーを用いて一次乳房再建術を受けた乳がん患者の術式選択に至る意思決定プロセス, 第37回日本がん看護学会学術集会(横浜市)
- 2) 小林綾子、樺澤三奈子、石岡幸恵、坂田智佳子、石田和子(2022. 10) : 新潟県版塩分チェックリストから読み解く新潟県民の推定食塩摂取量の実態と個人属性との関連 ―腎症進行予防指導のための質問票の活用に向けて―, 第14回新潟看護ケア研究学会第14回学術集会(オンライン)

5. その他の研究活動(2 件)

- 1) 樺澤三奈子、相澤達也、山岸美奈子、酒井禎子、岡村典子、坂田智佳子、高柳智子 : クリティカルケア看護における臨床推論の特徴とその教育方法に関する文献研究―看護基礎教育プログラムの構築をめざして―, 令和3年度新潟県立看護大学学内共同研究助成
- 2) 酒井禎子、相澤達也、坂田智佳子、樺澤三奈子、高柳智子、山岸美奈子、岡村典子、堀江正男、境原三津夫、村松卓弥、長井卓也 : クリティカルケアにおける「臨床推論力」を育成する看護基礎教育プログラムの構築, 令和4年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

- ・ 日本がん看護学会
- ・ せいれい看護学会
- ・ 新潟がん看護研究会
- ・ 新潟がん看護研究会 第14回認定看護師・専門看護師懇話会

【社会活動】

- ・ 新潟県看護協会 令和4年度看護教育養成講習会 講師
- ・ 外来透析通院患者の透析治療継続における困難と取り組み
- ・ 桜蓮祭における2022年度リレー・フォー・ライフ・ジャパンにいがた in 新潟県立看護大学 実行委員
- ・ 上越がんプロジェクト 実行メンバー
- ・ 日本緩和医療学会 ELNEC-J コアカリキュラム指導者養成プログラム修了(指導資格取得)

【学内教育活動】

学 部 : 成人看護学Ⅰ, 成人看護学Ⅱ, 成人看護学Ⅲ, 成人看護学Ⅳ, 成人看護学演習, 成人看護学実習, 総合実習(成人看護学 がん看護・緩和ケア実習), 国際看護演習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ

博士前期課程：がん看護学特論Ⅰ,がん看護学特論Ⅱ,がん看護学特別演習Ⅱ,がん看護学特別演習Ⅲ,がん治療看護介入演習Ⅱ,がん高度実践看護学実習Ⅰ,がん高度実践看護学実習Ⅱ,がん高度実践看護学実習Ⅲ,がん高度実践看護学実習Ⅳ,がん高度実践看護学実習Ⅳ,看護倫理特論  
博士後期課程：成人・がん看護学特論

【学内委員会等の活動】

国際交流委員会委員長, 研究推進委員会委員, 倫理委員会委員  
学年担任,

【外部資金獲得】

- 1) 樺澤三奈子(研究代表者)  
森一恵(2018～2023)：補助化学療法を受ける肺がん患者の倦怠感セルフマネジメント促進プログラムの臨床評価, 科学研究費助成事業(基盤研究C)
- 2) 大石ふみ子(研究代表者)  
白鳥さつき, 葉山有香, 南 裕美, 樺澤三奈子(2018～2022)：化学療法を受ける乳がん患者の味覚障害に対する客観的評価を用いた看護援助の検討, 科学研究費助成事業(基盤研究C)
- 3) 酒井禎子(研究代表者)  
樺澤三奈子, 坂田智佳子(2021～2024)：地方都市の高齢がん患者の「食べて動ける力」を支える集学的ケアモデルの臨床評価, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

小林 綾子

1. 原著論文(1 件)

- 1) Ayako Kobayashi, Kazuya Fujihara, Mayuko Harada Yamada, Takaaki Sato, Yuta Yaguchi, Masaru Kitazawa, Yasuhiro Matsubayashi, Midori Iwanaga, Takaho Yamada, Satoru Kodama, Hirohito Sone(2023.3) : Combined effects of blood pressure and glycemic status on risk of heart failure: a population-based study, Journal of Hypertension, 41(3), pp470 - 475(査読有)

2. その他論文(1 件)

- 1) 小林綾子、樺澤三奈子、石岡幸恵、坂田智佳子、石田和子(2023.3) : 新潟県版塩分チェックリストと簡易型自記式食事歴訪問票による推定食塩摂取量の 関係-推定食塩摂取量の実態をふまえた新潟県民における腎症発症・進行予防指導の検討-, 新潟看護ケア研究学会誌, 9, pp29 - 35(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(3 件)

- 1) Ayako Kobayashi, Kazuya Fujihara, Mayuko Harada Yamada, Takaaki Sato, Yuta Yaguchi, Masaru Kitazawa, Yasuhiro Matsubayashi, Midori Iwanaga, Takaho Yamada, Satoru Kodama, Hirohito Sone(2022.6) : Associations of Systolic Blood Pressure with the Incidence of Heart Failure According to Glucose Status, 82th Scientific Sessions of the American Diabetes Association(The Ernest N. Morial Convention Center in New Orleans, LA)
- 2) 小林綾子、樺澤三奈子、石岡幸恵、坂田智佳子、石田和子(2022.10) : 新潟県版塩分チェックリストから読み解く新潟県民の推定食塩摂取量の実態と個人属性との関連-腎症進行予防指導のための質問票の活用に向けて-, 新潟看護ケア研究学会(新潟県新潟市),
- 3) 山本和樹、馬場千瑛、齋藤汐莉、小林綾子(2022.11) : 虚血性心疾患を併発した糖尿病患者の療養生活への思い, 第53回日本看護学会学術集会(千葉 幕張メッセ)

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

- ・ 上越市食育推進委員
- ・ 2022年度 第17回新潟県糖尿病療養指導士ネットワーク会 3地区合同研究会 Web セミナー講師
- ・ 看護研究交流センター いきいきサロン「第1回 これならできそう運動療法～糖尿病予防できることから始めましょう～」講師
- ・ 虚血性心疾患を併発した糖尿病患者の思い
- ・ 「糖尿病・外来看護で大切なこと」合同ゼミ学習会 講師

【学内教育活動】

学 部 : 成人看護学Ⅲ, 成人看護学Ⅳ, 成人看護学演習, 成人看護学実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ, 総合実習

博士前期課程 : がん看護特別演習Ⅱ

博士後期課程 : なし



**【学内委員会等の活動】**

紀要委員会副委員長, 看護研究交流センター看護職学習支援副部門長  
保健指導員, よさこいサークル顧問

**【外部資金獲得】**

なし

石原 千晶

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(なし)
5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・ 日本看護研究学会
- ・ 日本がん看護学会
- ・ 日本看護学教育学会
- ・ 群馬がん看護研究学会
- ・ 新潟看護ケア研究学会
- ・ 新潟医学会
- ・ 北関東医学会

【社会活動】

- ・ 看護職学習支援公開講座の講師
- ・ 新潟がん看護研究会 上越がんプロジェクト共催 第14回認定看護師・専門看護師懇話会の開催スタッフ
- ・ 上越がんプロジェクト リレー・フォー・ライフ・ジャパン開催スタッフ

【学内教育活動】

学 部：成人看護学Ⅲ, 成人看護学Ⅳ, 成人看護学演習, 成人看護学実習, 総合実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ, 看護研究法, 災害看護活動論  
博士前期課程：がん看護特論Ⅰ, がん高度実践看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ  
博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

FD 委員会副委員長, 図書委員会委員, 災害時看護支援特別委員会委員, 看護研究交流センター地域課題研究開発部門員

【外部資金獲得】

- 1) 石原千晶(研究代表者)  
石田和子, 石岡幸恵, 相澤達也(2020～2024)：分子標的薬治療による皮膚障害に対する生活支援マネジメントモデルの開発, 科学研究費助成事業(基盤研究C)
- 2) 石田和子(研究代表者)  
石岡幸恵, 神田清子, 石原千晶, 佐藤充子, 川田智美(2022～2026)：大腸がん患者の健康管理行動を活性化する在宅型継続支援モデルの開発と効果, 科学研究費助成事業(基盤研究B)

石岡 幸恵

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(1 件)

- 1) 小林綾子、樺澤三奈子、石岡幸恵、坂田智佳子、石田和子(2023. 3) : 新潟県版塩分チェックリストと簡易型自記式食事歴訪質問票による推定食塩摂取量の関係-推定食塩摂取量の実態をふまえた新潟県民における腎症発症・進行予防指導の検討-, 新潟看護ケア研究学会誌, 9, pp29 - 35(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(1 件)

- 1) 小林綾子、樺澤三奈子、石岡幸恵、坂田智佳子、石田和子(2022. 10) : 新潟県版塩分チェックリストから読み解く新潟県民の推定食塩摂取量の実態と個人属性との関連-腎症進行予防指導のための質問票の活用に向けて-, 新潟看護ケア研究学会第 14 回学術集会(新潟),

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・ 日本がん看護学会

【社会活動】

- ・ ELNEC-J コアカリキュラム看護師教育プログラム「第 10 回」運営責任者、講師
- ・ 在宅酸素療法を受ける患者の医療機器関連圧迫創 (MDRPU) に対する認識と対処の実践

【学内教育活動】

学 部 : 成人看護学Ⅳ, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ, 看護倫理, 成人看護学演習, 成人看護学実習, 総合実習

博士前期課程 : がん高度実践看護実習ⅠⅡⅢⅣⅤ

博士後期課程 : なし

【学内委員会等の活動】

入試・広報委員会委員, 衛生委員会委員

ダンスサークル顧問, かたばみの家講習会講師

【外部資金獲得】

- 1) 石原千晶(研究代表者)

石岡幸恵、石田和子、相澤達也(2020～2024) : 分子標的薬治療による皮膚障害に対する生活支援マネジメントモデルの開発, 科学研究費助成事業(基盤研究 C)

- 2) 石田和子(研究代表者)

石田順子、石岡幸恵、神田清子、石原千晶、佐藤充子、川田智美(2022～2026) : 大腸がん患者の健康管理行動を活性化する在宅型継続支援モデルの開発と効果, 科学研究費助成事業(基盤研究 B)

相澤 達也

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(2件)
  - 1) 涌井幸恵, 笹川亜依, 平山理恵, 高柳智子, 相澤達也(2022.10): 3次救急医療施設における一般病棟での急変事例の現状分析, 第24回日本救急看護学会(東京)
  - 2) 佐居由美, 山田雅子, 西本葵, 安藤和美, 桃井雅子, 小高恵実, 酒井禎子, 相澤達也(2022.12): 包括的安楽ケアモデルの構築にむけた取り組み～各看護領域の熟練看護師が実践する「安楽」なケア～, 第42回日本看護科学学会学術集会(広島)
5. その他の研究活動(1件)
  - 1) 樺澤三奈子, 相澤達也, 山岸美奈子, 酒井禎子, 岡村典子, 坂田智佳子, 高柳智子: クリティカルケア看護における臨床推論の特徴とその教育方法に関する文献研究—看護基礎教育プログラムの構築をめざして—, 令和3年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

- ・ 日本看護科学学会 会員
- ・ 日本緩和医療学会 会員

【社会活動】

- ・ 第10回ELNEC-J コアカリキュラム看護師教育プログラム in 上越

【学内教育活動】

学 部: 成人看護学Ⅳ, 成人看護学演習, 成人看護学実習, 総合実習(成人看護学), 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ

博士前期課程: なし

博士後期課程: なし

【学内委員会等の活動】

実習委員会委員, 入試・広報委員会委員, 看護研究交流センター地域社会貢献部門員  
屋外球技サークル顧問

【外部資金獲得】

- 1) 石原千晶(研究代表者)  
石岡幸恵, 石田和子, 相澤達也(2020～2024): 分子標的薬治療による皮膚障害に対する生活支援マネジメントモデルの開発, 科学研究費助成事業(基盤研究C)
- 2) 本城由美(佐居由美)(研究代表者)  
山田雅子, 中山和弘, 酒井禎子, 小高恵実, 桃井雅子, 相澤達也, 西本葵(2018～2023): 実践知を基盤とした「安楽」をもたらす包括的コンピテンシー・プログラムの開発, 科学研究費助成事業(基盤研究B)

坂田 智佳子

1. 原著論文(1 件)

- 1) 小林綾子、樺澤三奈子、石岡幸恵、坂田智佳子、石田和子(2023. 3) : 新潟県版塩分チェックリストと簡易型自記式食事歴訪質問票による推定食塩摂取量の関係-推定食塩摂取量の実態をふまえた新潟県民における腎症発症・進行予防指導の検討-, 新潟看護ケア研究学会誌, 9 巻, pp29 - 35(査読有)

2. その他論文(なし)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(1 件)

- 1) 小林綾子、樺澤三奈子、石岡幸恵、坂田智佳子、石田和子(2022. 10) : 新潟県版塩分チェックリストから読み解く新潟県民の推定食塩摂取量の実態と個人属性との関連-腎症進行予防指導のための質問票の活用に向けて-, 新潟看護ケア研究学会(新潟)

5. その他の研究活動(2 件)

- 1) 樺澤三奈子、相澤達也、山岸美奈子、酒井禎子、岡村典子、坂田智佳子、高柳智子 : クリティカルケア看護における臨床推論の特徴とその教育方法に関する文献研究-看護基礎教育プログラムの構築をめざして-, 令和3 年度新潟県立看護大学学内共同研究助成
- 2) 酒井禎子、相澤達也、坂田智佳子、樺澤三奈子、高柳智子、山岸美奈子、岡村典子、堀江正男、境原三津男、村松卓弥、長井卓也 : クリティカルケアにおける「臨床推論力」を育成する看護基礎教育プログラムの構築, 令和4 年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

- ・ 日本がん看護学学会 会員
- ・ 日本看護科学学会 会員
- ・ 日本看護シミュレーションラーニング学会 会員
- ・ 日本農村医学会 会員
- ・ 新潟がん看護研究会 会員
- ・ 新潟看護ケア研究会 会員
- ・ 第 12 回上越地域看護研究発表会 実行委員会

【社会活動】

- ・ 第 10 回 ELNEC-J 運営
- ・ 2022 年度がん看護学会地方分科会 (5 区) 主催研修会 運営

【学内教育活動】

学 部 : 成人看護学Ⅲ, 成人看護学演習, 成人看護学実習, 総合実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ  
博士前期課程 : がん高度実践看護学実習ⅠⅡⅢⅣⅤ  
博士後期課程 : なし

【学内委員会等の活動】

図書委員会委員, 看護研究交流センター地域課題研究開発部門員

**【外部資金獲得】**

1) 坂田智佳子(研究代表者)

石田和子(2022～2025)：在宅療養への移行をつなぐ終末期がん患者の地域包括型看護ケアプログラム構築，科学研究費助成事業(基盤研究C)

2) 酒井禎子(研究代表者)

樺澤三奈子、坂田智佳子(2021～2024)：地方都市の高齢がん患者の「食べて動ける力」を支える集学的ケアモデルの臨床評価，科学研究費助成事業(基盤研究C)

大久保 明子

1. 原著論文(1 件)

- 1) 永吉雅人, 大久保明子, 伊藤ひかる, 境原三津夫(2023. 2) : 児童・生徒の健康状態と学校生活における健康支援管理支援へのニーズ, 上越教育大学教職大学院研究紀要, 10, pp175 - 183(査読有)

2. その他論文(2 件)

- 1) 塚原美穂, 大久保明子(2022. 12) : 小児がん患児のきょうだい支援の内容と課題に関する国内文献の検討, 日本小児看護学会誌, 31, pp242 - 250(査読有)
- 2) 大久保明子, 伊藤ひかる, 永吉雅人, 境原三津夫(2023. 3) : 学校生活における子どもの健康状態に関する保護者の気がかりと健康管理支援へのニーズ, 新潟県立看護大学紀要, 12, pp17 - 22(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(4 件)

- 1) 塚原美穂, 大久保明子(2022. 6) : 小児がん患児のきょうだいへの情報提供における看護師の経験プロセス, 日本小児看護学会第 32 回学術集会(福岡)
- 2) 伊藤ひかる, 大久保明子, 永吉雅人, 境原三津夫(2022. 12) : 学校生活における子どもの健康状態に関する保護者の気がかりと健康管理支援のニーズ, 日本看護科学学会第 42 回学術集会(広島)
- 3) 永吉雅人, 留目宏美, 大久保明子, 伊藤ひかる, 境原三津夫, 大庭重治(2022. 12) : 化学物質過敏症の児童・生徒に対する支援の実態および香害に関する児童・生徒とその保護者の認識, 2022 年室内環境学会学術大会(東京)
- 4) 山田恵子, 小林宏至, 伊藤ひかる, 伊藤美由紀, 大久保明子(2023. 3) : 入院中の子どもの観察技術習得に向けたシミュレーション教育導入における教育方法の検討, 第 15 回日本医療教授システム学会(東京)

5. その他の研究活動(1 件)

- 1) 山田恵子, 関睦美, 上田恵, 大久保明子 : 救急外来で予期せず子どもを亡くした親のグリーフに影響を与えた看護師の関わり, 令和 3 年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

- ・ 仏教看護・ビハール学会 理事・編集委員
- ・ 日本看護科学学会 会員
- ・ 日本小児看護学会 会員
- ・ 日本小児がん看護学会 会員
- ・ 日本家族看護学会 会員
- ・ 日本がん看護学会 会員
- ・ 日本小児保健協会 会員
- ・ 日本臨床死生学会 会員
- ・ 日本死の臨床研究会 会員
- ・ 新潟小児看護研究会 役員

【社会活動】

- ・ 新潟県立上越特別支援学校 学校評議員
- ・ 上越市自立支援協議会 委員 重症・医ケア部会 部会長
- ・ 妙高市教育支援委員会 委員
- ・ 上越市総合計画審議会 委員
- ・ 上越市子ども・子育て会議 副会長

- ・ 日本看護系大学協議会 会員校代表
- ・ 高等教育コンソーシアムにいがた 常任委員
- ・ 上越ファミリーサポートセンター 提供会員養成講座講師 第1回「身体の発育と病気」
- ・ 上越ファミリーサポートセンター 提供会員養成講座講師 第2回「身体の発育と病気」
- ・ 上越ファミリーサポートセンター 提供会員養成講座講師 第3回「身体の発育と病気」
- ・ 上越ファミリーサポートセンター 提供会員養成講座講師 第4回「身体の発育と病気」
- ・ 上越ファミリーサポートセンター 提供会員養成講座講師 第5回「身体の発育と病気」
- ・ 上越ファミリーサポートセンター 提供会員養成講座講師 第6回「身体の発育と病気」
- ・ いのちを語る会（子どもを亡くした遺族の会）
- ・ 重心・医ケア児の地域生活を考える会
- ・ NPO 法人ギフテッド
- ・ 当院の退院支援の評価からみえた課題-退院支援評価表を分析して-

#### 【学内教育活動】

学 部：ライフステージと看護, 小児看護学Ⅰ, 小児看護学Ⅱ, 小児看護学演習, 小児看護学実習, 家族看護論, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ, 総合実習

博士前期課程：看護研究法

博士後期課程：なし

#### 【学内委員会等の活動】

ハラスメント防止特別委員会委員長, 自己点検・評価特別委員会委員長, 教務委員会副委員長, 外部評価特別委員会委員, 情報ネットワーク特別委員会委員, 教学委員会委員

#### 【外部資金獲得】

##### 1) 大庭重治(研究代表者)

葉石光一, 笠原芳隆, 八島猛, 佐藤将朗, 坂口嘉菜, 上野光博, 留目宏美, 池川茂樹, 境原三津夫, 大久保明子, 高柳智子, 永吉雅人(2020～2022)：健康管理に特別な配慮を必要とする子どもの教育的支援に関する地域連携モデルの構築, 科学研究費助成事業(基盤研究B)

##### 2) 稲垣応顕(研究代表者)

アントン・セビア, 坂井祐円, 大久保明子(2020～2022)：「いのち教育」の理論とその実践方法に関する臨床教育学的考察, 科学研究費助成事業(基盤研究C)



山田 恵子

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(1 件)

- 1) Keiko Yamada Tomoko, Sumiyoshi Yoko, Maeda Kanako, Shiga Megumi Hatanaka(2022.11): Self-assessment of pediatric basic life support among nursery teachers in a rural area of Japan Resuscitation Plus, 12, pp100331 - 100331(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(2 件)

- 1) 赤川美穂, 横山亜希, 長澤聡子, 高橋絹代, 山田恵子(2022.10): 臓器提供の各段階における必要な看護を明らかにする ―ご家族へのケアを通して―, 第58回日本移植学会総会(名古屋)
- 2) 山田恵子, 小林宏至, 伊藤ひかる, 伊藤美由紀, 大久保明子(2023.3): 入院中の子どもの観察技術習得に向けたシミュレーション教育導入における教育方法の検討, 第15回日本医療教授システム学会総会・学術集会(東京)

5. その他の研究活動(1 件)

- 1) 山田恵子, 関睦美, 上田恵, 大久保明子: 救急外来で予期せず子どもを亡くした親のグリーフに影響を与えた看護師の関わり, 令和3年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

- ・ 日本救急看護学会

【社会活動】

- ・ 中郷公民館 出前講座 乳幼児の怪我や体調不良時のホームケア 講師
- ・ 直江津地区公民館 出前講座 こうみんかんの子育て講座 講師
- ・ ユートピア頸城 出前講座 日用品を使った応急手当 講師
- ・ 真行寺幼稚園 出前講座 乳幼児の怪我や体調不良時のホームケア 講師
- ・ 真行寺幼稚園 出前講座 日用品を代用した感染予防策を講じて行う応急手当 講師
- ・ 地域社会貢献部門 いきいきサロン 第3回 まご疲れしていませんか 講師
- ・ A 県内の病院における看護研究への取り組みに関する調査
- ・ 臓器提供の各段階における必要な看護ケア ご家族への看護を振り返って

【学内教育活動】

学 部: 小児看護学Ⅰ, 小児看護学Ⅱ, 小児看護学演習, 小児看護学実習, 看護研究法, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ, 総合実習

博士前期課程: なし

博士後期課程: なし

【学内委員会等の活動】

学生委員会委員, 国家試験対策・就職委員会委員, 看護研究交流センター地域社会貢献部門長  
学年担任, 研究推進委員会主催研修会 講師

【外部資金獲得】

1) 山田恵子(研究代表者)

住吉智子, 佐藤由紀子, 高橋絹代(2022～2025) : 臨床判断モデルを応用した保育士向け PBLS 自主学習教材の開発, 科学研究費助成事業(基盤研究 C)

2) 関睦美(研究代表者)

表志津子, 岡本理恵, 山田恵子, 野口裕子(2022～2026) : 医療的ケア児の通常学校就学を可能にする学校看護師就労促進モデルの構築, 科学研究費助成事業(基盤研究 C)

伊藤 ひかる

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(2 件)

- 1) 大久保明子, 伊藤ひかる, 永吉雅人, 境原三津夫(2023. 3) : 学校生活における子どもの健康状態に関する保護者の気がかりと健康管理支援へのニーズ, 新潟県立看護大学紀要, 12, pp17 - 22(査読有)
- 2) 永吉雅人, 大久保明子, 伊藤ひかる, 境原三津夫, 大庭重治(2023. 2) : 児童・生徒の健康状態と学校生活における健康管理支援へのニーズ, 上越教育大学教職大学院研究紀要, 10, pp175 - 183(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(3 件)

- 1) 伊藤ひかる, 大久保明子, 永吉雅人, 境原三津夫(2022. 12) : 学校生活における子どもの健康状態に関する保護者の気がかりと健康管理支援へのニーズ, 第 42 回日本看護科学学会学術集会(広島)
- 2) 永吉雅人, 留目宏美, 大久保明子, 伊藤ひかる, 境原三津夫, 大庭重治(2022. 12) : 化学物質過敏症の児童・生徒に対する支援の実態および香害に関する児童・生徒とその保護者の認識, 2022 年室内環境学会学術大会(東京都)
- 3) 山田恵子, 小林宏至, 伊藤ひかる, 伊藤美由紀, 大久保明子(2023. 3) : 入院中の子どもの観察技術習得に向けたシミュレーション教育導入における教育方法の検討, 第 15 回日本医療教授システム学会総会学術集会(東京)

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・ 日本看護科学学会
- ・ 日本小児看護学会
- ・ 看護実践学会

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

学 部 : 小児看護学Ⅱ, 小児看護学演習, 小児看護学実習, 総合実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ

博士前期課程 : なし

博士後期課程 : なし

【学内委員会等の活動】

実習委員会委員

学年担任保健指導員 100 徒歩サークル, いちよう食堂スタッフサークルサークル顧問

【外部資金獲得】

なし

小林 宏至

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(なし)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(4件)

- 1) 小林宏至, 田中美央(2022. 7) : 新潟県内フォローアップ健診対象児の家族における災害への備えの実態調査, 第32回新潟周産母子研究会学術講演会(新潟市)
- 2) 小林宏至, 田中美央(2022. 9) : A 県医療的ケア児の家族における災害への備えの実態, 日本災害看護学会第24回年次大会(高知県)
- 3) 小林宏至, 田中美央, 小林玲, 遠山潤, 金子孝之, 齋藤智子, 住吉智子, 佐藤由紀子, 和田雅樹(2023. 1) : 新潟県医療的ケア児の家族における災害への備えの実態調査報告, 令和4年度新潟市医師会地域医療研究助成報告会(新潟市)
- 4) 山田恵子, 小林宏至, 伊藤ひかる, 伊藤美由紀, 大久保明子(2023. 3) : 入院中の子どもの観察技術習得に向けたシミュレーション教育導入における教育方法の検討, 第15回日本医療教授システム学会総会・学術集会(東京都)

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・ 日本新生児看護学会 会員
- ・ 日本災害看護学会 会員
- ・ 日本小児看護学会 会員
- ・ 新潟小児看護研究会 会員

【社会活動】

- ・ 医療的ケア児を支援する多職種連携の会「第5回しゃんしゃん育ちの会～在宅医療的ケア児・者の防災について考えよう～」講師

【学内教育活動】

学 部 : 小児看護学演習, 小児看護学実習, 総合実習

博士前期課程 : なし

博士後期課程 : なし

【学内委員会等の活動】

看護研究交流センター先駆的学習支援部門員

【外部資金獲得】

1) 田中美央(研究代表者)

小林宏至、遠山潤、金子孝之、住吉智子、佐藤由紀子、和田雅樹、渡邊流理也、齋藤智子(2021～2024)  
: 新潟市における医療的ケア児の災害支援基盤強化の検討, 新潟市医師会地域医療研究助成

## 常盤 洋子

### 1. 原著論文(3 件)

- 1) 堀越節子, 常盤洋子, 國清恭子, 深澤友子, 飯嶋友美(2023. 1) : 乳児をもつ母親が実践している育児に伴うストレスマネジメントの内容 母親の語りの内容分析, 母性衛生, 63 (4), pp692 - 701 (査読有)
- 2) 及川裕子, 常盤洋子(2022. 10) : 災害時の避難所におけるウィメンズヘルスの課題 東日本大震災の避難所を経験した成熟期女性の語りから, 日本健康医学会雑誌, 31 (3), pp369 - 379 (査読有)
- 3) Kyoko Kunikiyo1, Yoko Tokiwal, Tomoko Fukasawal, Aska Saito1, Yoko : Arai2(2022. 8)\*Relationship between self-evaluation of childbirth experience and maternity blues in early puerperium, 日本周産期メンタルヘルスジャーナル, 8(1), pp45 - 56 (査読有)

### 2. その他論文(なし)

### 3. 著書(1 件)

- 1) 江藤宏美 (編)、常盤洋子・他(2023. 2) : 助産師テキスト 6 巻, 産褥期の適応とアセスメント, 日本看護協会出版会(東京)

### 4. 学会発表(4 件)

- 1) 常盤洋子 (2022. 9) : 出産体験の振り返りのアセスメントから意味づけの支援まで一母性看護外来の実践から一, 第 18 回日本助産診断学会学術集会(宮崎県)
- 2) 常盤洋子(2022. 10) : 母性を支える看護のちから～メンタルヘルスケアとしての出産体験の振り返り支援～, 第 18 回日本周産期メンタルヘルス学会学術集会(WEB 開催)
- 3) 堀越節子, 常盤洋子(2022. 12) : 乳児を持つ母親が実践している育児に伴うストレスマネジメントの内容, 第 24 回日本母性看護学会学術集会(広島県)
- 4) 八巻ちひろ, 常盤洋子(2022. 6) : 青年期女性のプレコンセプションケアに関わる意識と行動-成熟期就労女性と比較して-, 第 24 回日本母性看護学会学術集会(大阪府)

### 5. その他の研究活動(なし)

#### 【学会等における活動】

- ・ 日本看護科学学会 評議員
- ・ 日本助産学会 評議員
- ・ 日本助産学会 査読委員
- ・ 日本周産期メンタルヘルス学会 顧問
- ・ 群馬県看護協会学会
- ・ 第 18 回日本周産期メンタルヘルス学会学術集会 市民公開シンポジウム
- ・ 第 18 回日本周産期メンタルヘルス学会学術集会
- ・ 第 5 回日本助産診断実践学会学術集会 教育講演演者
- ・ 群馬県看護協会学会

#### 【社会活動】

- ・ 群馬県助産師活用推進事業協議会委員
- ・ 群馬県看護協会副会長
- ・ 日本看護協会代議員
- ・ 「群馬県看護協会新人助産師研修」講師
- ・ 「群馬県看護協会実習指導者講習会」講師
- ・ 「大泉町 男女共同参画オンラインセミナー」講師
- ・ 「群馬県看護協会 一般看護専門継続教育研修(助産師職能)」講師

- ・ 「群馬県消防学校 分娩介助演習」講師
- ・ 「宮崎県立看護大学（助産学研究Ⅱ）」非常勤講師
- ・ 「群馬大学医学部保健学科（助産学総論、母子看護学総論、助産管理論）非常勤講師
- ・ 「群馬大学大学院博士前期課程 CNS コース（母性看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）」非常勤講師
- ・ 「群馬県周産期研究会」常任理事
- ・ 「群馬大学医学部附属病院看護部管理者研修」講師
- ・ 「群馬大学大学院保健学研究科 地域完結型実習指導論」非常勤講師
- ・ 日本看護協会会長賞 2022 年 6 月 8 日
- ・ 群馬県知事表彰 2022 年 5 月 13 日
- ・ 群馬大学医学部附属病院の母性看護外来（看護専門外来）におけるアドバイザー業務の遂行

#### 【学内教育活動】

学 部：母性看護学概論, 助産管理論, 助産学概論, ウィメンズヘルス, 地域母子保健

博士前期課程：母性看護学特論, 母性看護学援助論Ⅰ, 母性看護学援助論Ⅱ, 母性看護学特別演習

博士後期課程：なし

#### 【学内委員会等の活動】

倫理委員会委員長, 大学院教育検討委員会副委員長, 教務委員会委員, 教学委員会委員, 研究科委員会委員  
倫理委員会研修会講師

#### 【外部資金獲得】

##### 1) 荒井洋子(研究代表者)

常盤洋子, 北原慈和(2021～2025)：不妊治療終結期にある女性へ「意味づけ」を支援する看護相談モデルの開発, 科学研究費助成事業(基盤研究 C)

##### 2) 國清恭子(研究代表者)

常盤洋子, 深澤友子, 齋藤明香(2022～2026)：出産体験の振り返りアセスメントツールを用いた看護介入モデルの考案, 科学研究費助成事業(基盤研究 C)

西田絵美

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(1 件)

- 1) 川島良子、西田絵美(2022. 5) : 基礎看護学における講義・演習で学生が学んだことに関する文献検討,  
THE KITAKANTO MEDICAL JOURNAL, 72 (2) , pp229 - 235(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(なし)

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

- ・ 上越市男女共同参画審議会委員

【学内教育活動】

学 部 : 人間社会と倫理, 母性看護学Ⅱ, 母性看護学演習, 母性看護学実習, ライフステージと看護, 家族看護  
論, 妊娠期助産診断技術学, 分娩期助産診断技術学, 産褥・新生児期助産診断技術学, 助産技術学演  
習, 助産学実習

博士前期課程 : 看護倫理特論

博士後期課程 : なし

【学内委員会等の活動】

実習委員会副委員長, FD 委員会委員, 入学委員会委員, ハラスメント委員会相談員

【外部資金獲得】

なし

西川 美樹

1. 原著論文(2件)

- 1) 西川美樹, 齋藤いずみ(2022. 10) : 総合周産期母子医療センターで就業する助産師の日々のケア実践における母児の安全に対する認識, インターナショナルNursing Care Research, 21(3), pp117 - 126(査読有)
- 2) 西川美樹, 齋藤いずみ, 大滝千文, 寺岡歩(2023. 2) : Mobile Device を活用した総合周産期母子医療センターにおける夜勤帯スタッフの看護行為測定, THE KITAKANTO MEDICAL JOURNAL, 73(1), pp51 - 59(査読有)

2. その他論文(なし)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(なし)

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・ 日本看護科学学会 会員
- ・ 日本助産学会 会員
- ・ 日本看護研究学会 会員
- ・ 日本母性衛生学会 会員
- ・ 看護理工学会 会員
- ・ 日本医学看護学教育学会 会員
- ・ 母性看護学会 会員
- ・ 新潟母性看護学・助産学・遺伝看護学研究会 役員
- ・ 第11回看護理工学会学術集会 実行委員
- ・ 第1回新潟母性看護学・助産学・遺伝看護学研究会 実行委員

【社会活動】

- ・ 第11回看護理工学会学術集会抄録の査読 (15 件)

【学内教育活動】

学 部 : 産褥・新生児期 助産診断・技術学, 助産技術学演習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ, 母性看護学Ⅱ, 母性看護学演習, 助産学実習, 母性看護学実習, 総合実習

博士前期課程 : なし

博士後期課程 : なし

【学内委員会等の活動】

学生委員会委員, 入試広報委員会委員, 看護研究交流センター地域社会貢献部門員

【外部資金獲得】

なし



八巻 ちひろ

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(なし)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(2 件)

- 1) 八巻ちひろ, 常盤洋子(2022. 6) : 看護職の月経随伴症状に対する保健行動と仕事の対する充実感への影響要因 - 保健行動因果モデルの検討 -, 日本母性看護学会(オンライン(大阪) )
- 2) 八巻ちひろ, 佐々木三和(2022. 12) : 更年期症状・更年期障害を有する女性の対処行動に関する文献レビュー, 第 11 回日本公衆衛生看護学会学術集会(オンライン(宮城))

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

- ・ 群馬県 産業保健セミナー「働く女性の健康支援の輪を広げよう第 1 回月経関連疾患」 講師(1 件)

【学内教育活動】

学 部 : 産褥期・新生児期助産診断・技術学, 分娩期助産診断・技術学, 助産技術学演習, 助産学実習, 助産学概論, 地域母子保健, ウィメンズヘルス, 助産学管理論, 総合実習, 専門ゼミナール, 母性看護学Ⅰ, 母性看護学Ⅱ, 母性看護学演習, 母性看護学実習

博士前期課程 : なし

博士後期課程 : なし

【学内委員会等の活動】

国家試験対策就職委員会委員, 看護研究交流センター地域社会貢献部門員

【外部資金獲得】

なし

上田 恵

1. 原著論文(1 件)

- 1) 上田 恵, 中島通子, 西田絵美(2022. 12) : レズビアンを自認する女性が同性パートナーとの間に自身の子どもをもつまでに辿る意思決定のプロセス, 日本助産学会誌, 36(2), pp225 - 235(査読有)

2. その他論文(なし)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(なし)

5. その他の研究活動(1 件)

- 1) 山田恵子 大久保明子, 関睦美, 上田恵 : 救急外来で予期せず子どもを亡くした親のグリーフに影響を与えた看護師の関わり, 令和3年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

学 部 : 助産技術学演習, 助産学実習, 総合実習, 母性看護学Ⅱ, 母性看護学演習, 母性看護学実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ, 妊娠期助産診断・技術学

博士前期課程 : なし

博士後期課程 : なし

【学内委員会等の活動】

看護研究交流センター看護職学習支援部門員

学年担任

【外部資金獲得】

- 1) 中島通子(研究代表者)

上田恵(2021～2023) : 助産学実習における助産師と教員の「医療事故回避教育プログラム」の開発と検証, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

伊藤 美由紀

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(なし)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(1 件)

- 1) 山田恵子(2023. 3)：入院中の子どもの観察技術習得に向けたシミュレーション教育導入における教育方法の検討，第 15 回日本医療教授システム学会(東京都)

5. その他の研究活動(なし)

**【学会等における活動】**

なし

**【社会活動】**

なし

**【学内教育活動】**

学 部：小児看護学Ⅰ, 小児看護学Ⅱ, 小児看護学演習, 小児看護学実習, 総合実習, 専門ゼミナール, 在宅看護演習, 母性看護学演習, 助産学概論, ウイメンズヘルス, 地域母子保健

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

**【学内委員会等の活動】**

入試・広報委員, 看護研究交流センター地域社会貢献部門員

**【外部資金獲得】**

なし

五十畑 麻奈美

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(なし)
5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

学 部：母性看護学演習, 母性看護学実習, 助産学技術学演習, 助産学実習, 総合実習

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

看護研究交流センター地域課題研究開発部門員

【外部資金獲得】

なし

1. 原著論文(1 件)

- 1) Hajime Takechi, Naoko Hara, Kyoko Eguchi, Shoko Inomata, Yuki Okura, Miwa Shibuya, Hiroshi Yoshino, Noriyuki Ogawa and Morio Suzuki (2023. 1) : Dynamics of Interaction among Professionals, Informal, Supporters, and Family Caregivers of People with Dementia along the Dementia Care Pathway: A Nationwide Survey in Japan, International Journal of Environmental Research and Public Health <https://doi.org/10.3390/ijerph20065044>, 20 (6) , pp1 - 13(査読有)

2. その他論文(2 件)

- 1) 武地一, 原等子, 他 13 名(2023. 3) : 認知症(中重度)の人の在宅生活を継続するための家族の関わり方に関する調査研究事業, 令和4年度老人保健事業推進費等補助金 老人保健健康増進等事業報告, -, pp1 - 186(査読無)
- 2) 柳澤美直代, 原等子(2022. 8) : POTT(食事体位の技術)で食べる喜びが広がる 認知症対応型共同生活介護での終末期の“食べる”を支える POTT スキルアップ, オン・ナースィング, 1 (1) , pp49 - 52(査読無)

3 著書(2 件)

- 1) 原等子(2023. 2) : 誤嚥予防, 食事のためのポジショニング POTT プログラム, 第4章 POTT プログラムを伝える, 広げる 病院・施設における教育 看護基礎教育における POTT プログラム, 医学書院(東京)
- 2) 武地一, 原等子, 他 19 名(2023. 3) : 認知症のひとと家族の暮らしを支える手引き 中等度・重度認知症の人の在宅生活支援ガイドブック, 公益社団法人認知症のひとと家族の会(京都)

4 学会発表(10 件)

- 1) Naoko Hara, Hajime Takechi, Kyoko Eguchi, Shoko Inomata, Miwa Shibuya, Naomi Onouchi, Noriyuki Ogawa(2022. 6) : Support Needs of Family carers for people with dementia in Japan, 35th Global Conference of Alzheimer's Disease International (London, UK and online)
- 2) 原等子, 大倉由貴, 江口恭子, 猪俣祥子, 尾之内直美, 渋谷美和, 鎌田松代, 小川敬之, 荻山和生, 武地一(2022. 6) : 認知症の人の家族の思いと受けている支援に関する実態調査 第4報: 認知症の人の家族の受容と支援状況, 日本老年看護学会第27回学術集会(石川 and online)
- 3) 大倉由貴, 原等子, 江口恭子, 猪俣祥子, 尾之内直美, 渋谷美和, 鎌田松代, 小川敬之, 荻山和生, 武地一(2022. 6) : 認知症の人の家族の思いと受けている支援に関する実態調査 第1報: 認知症の人の家族が受診時に受ける医療機関での情報提供, 日本老年看護学会第27回学術集会(石川 and online)
- 4) 江口恭子, 原等子, 大倉由貴, 猪俣祥子, 尾之内直美, 渋谷美和, 鎌田松代, 小川敬之, 荻山和生, 武地一(2022. 6) : 認知症の人の家族の思いと受けている支援に関する実態調査 第3報: 認知症と診断された後に家族が抱く思い, 日本老年看護学会第27回学術集会(石川 and online)
- 5) 猪俣祥子, 原等子, 江口恭子, 尾之内直美, 渋谷美和, 鎌田松代, 小川敬之, 荻山和生, 武地一(2022. 6) : 認知症の人の家族の思いと受けている支援に関する実態調査 第2報: 認知症の人の家族が診断前に医療へ期待すること, 日本老年看護学会第27回学術集会(石川 and online)
- 6) 猪俣祥子, 原等子, 江口恭子, 尾之内直美, 渋谷美和, 鎌田松代, 小川敬之, 荻山和生, 武地一(2022. 6) : 認知症と診断されて間もない家族の相談行動の実態, 第23回日本認知症ケア学会大会(online)
- 7) 青山拓夢, 原等子, 小野幸子(2022. 6) : 新型コロナウイルス感染症に伴う活動制限による高齢者と家族の体験内容 A 県の介護老人保健施設における面接調査より, 日本老年看護学会第27回学術集会(石川 and online)

- 8) 帆苺 真由美, 上原 喜美子, 原 等子, 中村 圭子(2022. 9) : 中山間地で暮らす高齢糖尿病患者の在宅療養継続に向けた訪問看護師の思いと支援上の課題意識, 第 27 回日本糖尿病教育・看護学会学術集会(大阪 and online)
- 9) 上原 喜美子, 加藤 公則, 帆苺 真由美, 中村 圭子, 原 等子, 布施 克也(2022. 7) : 2 型糖尿病高齢者における血糖管理と認知機能およびうつ状態との関連に関する研究, 第 65 回日本糖尿病学会学術集会(兵庫)
- 10) 原等子, 大倉由貴, 江口恭子, 猪俣祥子, 尾之内直美, 渋谷美和, 鈴木森夫, 小川敬之, 苺山和生, 武地一(2022. 7) : 認知症診断後の認知症の人の家族の相談状況およびそのニーズ 家族への実態調査から, 日本老年社会学会第 64 回大会(東京)

## 5 その他の研究活動(なし)

### 【学会等における活動】

- ・ 日本老年看護学会査読委員
- ・ 日本認知症ケア学会査読委員
- ・ 日本老年社会学会査読委員
- ・ 日本認知症ケア専門士出題委員
- ・ 日本看護協会日本看護学会査読委員
- ・ POTT プロジェクト副理事長, 北陸ブロック長
- ・ 日本看護科学会会員
- ・ 新潟口腔ケア研究会世話人
- ・ 認知症で日本をつなぐシンポジウム 2022 「住み慣れたまちで暮らすために一現状と課題、私たちにできること」 (オンライン) (11/13)
- ・ 認知症の人と家族 日韓オンライン交流会 (3/23) 座長
- ・ 福祉・介護・健康フェア 2022in 上越 パネルディスカッション「仲間がいるっていいなあ 認知症の人と家族が提言する認知症にやさしいまち」コーディネーター (10/22), 上越市オーレンプラザ

### 【社会活動】

- ・ 国土交通省移動円滑化等評価会議委員
- ・ 上越市介護保険運営協議会委員
- ・ 上越市地域包括支援センター運営協議会副委員長
- ・ 上越市社会福祉協議会法人後見事業運営委員会委員
- ・ 医療法人知命堂病院「認知症の人の尊厳を支え尊重すること」, 上越市知命堂病院 (10/31, 70 分)
- ・ 老人保健施設くびきの「認知症の人の尊厳を支え尊重すること」, 上越市知命堂病院 (11/4, 60 分)
- ・ 上越市社会福祉協議会, 令和 4 年度権利擁護推進事業ミニ講座「元気で長生きのおはなし」, 上越市総合福祉センター (11/26, 90 分)
- ・ 看護研究交流センター出前講座「認知症のこと知りたい(入門編)」, 上越市木田寿会, 木田町内会館 (6/15, 60 分)
- ・ 看護研究交流センター出前講座「認知症のこと知りたい(入門編)」, 能生町地域まちづくり推進協議会, 能生地区生涯学習センター (7/28, 90 分)
- ・ 看護研究交流センター出前講座「認知症のこと知りたい(入門編)」, 上越市社協板倉支所, やすらぎ荘 (12/5, 90 分)
- ・ 看護研究交流センター出前講座「認知症のこと知りたい(中級編)」, 能生町地域まちづくり推進協議会, 能生地区生涯学習センター (12/15, 120 分)
- ・ 地球家族パートⅡ, ぽ〜れぽ〜れ, 公益社団法人認知症の人と家族の会, (503), 2022. 6.
- ・ 公益社団法人認知症の人と家族の会 常任理事
- ・ A 県内の病院における看護研究への取り組みに関する調査
- ・ 身体抑制の低減に向けた実践 〜看護師の年代別インタビューによる課題分析を踏まえた介入をとおして〜, 長岡赤十字病院 関真和, 山崎依美里, 須戸舞花, 2022-2023

- ・ 地域課題研究指導 多職種協働で立ち上げた認知症ケア委員会の取り組み, 新発田リハビリテーション病院 清水博美, 2021-2022

#### 【学内教育活動】

学 部：ライフステージと看護, 家族看護論, 老年看護学Ⅰ, 老年看護学Ⅱ, 老年看護学演習, 老年看護学実習, 看護研究法, 総合実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ, ボランティア活動

博士前期課程：フィジカルアセスメント, 老年看護学援助論Ⅰ, 老年看護学援助論Ⅱ, 老年高度特別演習Ⅰ, 老年看護特別演習Ⅲ, 専門分野別課題研究 (CNS)

博士後期課程：なし

#### 【学内委員会等の活動】

教務委員会委員, 国家試験対策・就職委員会副委員長, 教学委員会委員, 看護研究交流センター地域課題研究開発部門長

認知症オレンジサークル顧問, キャリア支援 (教員用) 研修会講師

#### 【外部資金獲得】

1) 鈴木森夫 (研究代表者)

原等子, 鎌田松代, 辻村康代, 武地一 (2022～2022)：認知症 (中重度) の人の在宅生活を継続するための家族の関わり方に関する調査研究, 令和4年度老人保健健康増進等事業

2) 上原喜美子 (研究代表者)

加藤公則, 原等子, 中村圭子, 帆苅真由美 (2020～2023)：中山間地在宅高齢2型糖尿病患者の治療実態の改善に向けた新たなシステムの構築, 科学研究費助成事業 (基盤研究C)

東條 紀子

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(なし)
5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・ 日本看護学教育学学会（会員）
- ・ 日本老年看護学会（会員）
- ・ 日本在宅ケア学会（会員）
- ・ 日本難病看護学会（会員）
- ・ 日本救急看護学会（会員）

【社会活動】

- ・ A 地域における高齢透析患者の介護関連入居施設への入所に関するケアマネジメントの実際
- ・ A 地域における高齢透析患者の介護関連入居施設への入所状況に関する実態 ”
- ・ 認知症の人と家族の会「中等度・重度認知症の人の在宅生活継続に関する家族調査」のデータ取りまとめ・分析への協力
- ・ シニアリトミックの会 ミニ健康講座講義協力
- ・ 新潟県立看護大学大学院修了生ネットワーク役員

【学内教育活動】

学 部：総合実習, 老年看護学演習, 老年看護学実習, 老年看護学Ⅱ, 老年看護学Ⅰ, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

入試広報委員会委員, 学生委員会委員

【外部資金獲得】

なし



青山 拓夢

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(なし)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(1 件)

1) 青山拓夢, 原等子, 小野幸子(2022. 6) : 新型コロナウイルス感染症に伴う活動制限による高齢者と家族の体験内容 - A 県の介護老人保健施設における面接調査より -, 日本老年看護学会第 27 回学術集会(石川 (Web 配信))

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・ 日本老年看護学会

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

学 部 : 老年看護学Ⅰ, 老年看護学Ⅱ, 老年看護学演習, 老年看護学実習, 総合実習, 専門ゼミナールⅡ

博士前期課程 : なし

博士後期課程 : なし

【学内委員会等の活動】

看護職学習支援委員, 地域社会貢献委員, 看護研究交流センター地域社会貢献部門員

【外部資金獲得】

なし

谷本千恵

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(なし)
5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・ 日本看護科学学会
- ・ 日本精神保健看護学会
- ・ 日本うつ病学会

【社会活動】

- ・ 新潟県精神保健福祉協会上越支部 理事

【学内教育活動】

学 部：精神看護学Ⅰ, 精神看護学Ⅱ, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ, 国際看護論, 総合実習  
博士前期課程：精神看護学特論, 精神看護学援助論Ⅰ, 精神看護学特別演習, 看護研究法  
博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

FD 委員会委員長, 倫理委員会副委員長, 教務委員会委員

【外部資金獲得】

- 1) 谷本千恵(研究代表者)  
河西千秋、大江真吾、船山健二(2019～2024)：患者の自殺を体験した精神科看護師のメンタルヘルスケアプログラムの開発, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

佐々木 三和

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(2件)
  - 1) 佐々木三和, 熊地美枝(2022. 6) : コンピテンシー育成を目指した精神看護学教育プログラムに参加した看護学生の体験, 第32回日本精神保健看護学会学術集会(WEB開催)
  - 2) 八巻ちひろ, 佐々木三和(2022. 12) : 更年期症状・更年期障害を有する女性の対処行動に関する文献レビュー, 第11回日本公衆衛生看護学会学術集会(宮城(オンライン同時開催))
5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

- ・ 新潟県看護協会論文指導
- ・ 看護交流センター出前講座「こころの病と健康と」講師 2回
- ・ 上越市板倉保健センター講習会講師
- ・ 大学訪問 高校生に向けた模擬講義
- ・ 大学訪問 中学生に向けた模擬講義
- ・ シニアリトミックの会 健康講座「マインドフルネス」

【学内教育活動】

学 部 : 精神看護学Ⅰ, 精神看護学Ⅱ, 精神看護学演習, 精神看護学実習, 統合実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ

博士前期課程 : 精神看護学特論, 精神看護学援助論Ⅰ, 精神看護学特別演習

博士後期課程 : なし

【学内委員会等の活動】

国家試験対策・就職委員会委員, 入試・広報委員会委員, 国際交流委員会委員, 入学委員会副委員長, 研究科委員会委員

【外部資金獲得】

- 1) 佐々木三和(研究代表者)  
(2022～2025) : 地域で境界性パーソナリティ障害者を支えるための訪問看護師への支援プログラムの開発, 科学研究費助成事業(若手研究)

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(3 件)

- 1) 船山健二(2023. 2) : 身体的・心理的・社会的なケアを提供するフォレンジック看護の実践と今後の展望, Nursing BUSINESS, 17(2), pp72 - 75(査読無)
- 2) 船山健二(2023. 2) : 身体的・心理的・社会的なケアを提供するフォレンジック看護の実践と今後の展望, 産業保健と看護, 15(2), pp66 - 69(査読無)
- 3) 船山健二(2023. 3) : あなたは看護師として何をとらえ、何を考え、どのようなまなざしを向け行動しますか? 身寄りなし・お金なし・住まいなしの方が自分の医療機関に助けを求めてきたら, Nursing BUSINESS, 17(3), pp74 - 76(査読無)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(2 件)

- 1) 船山健二(2022. 6) : 新学習指導要領に基づく高等学校における「精神疾患の予防と回復」教育の取り扱い方, 日本精神保健看護学会第 32 回学術集会(東京(Web : オンデマンド))
- 2) 船山健二(2022. 9) : 拡大自殺 : その言葉の用いられ方と意味, 日本フォレンジック看護学会第 9 回学術集会(東京(Web : オンデマンド))

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・ 日本フォレンジック看護学会 理事
- ・ 日本フォレンジック看護学会 利益相反委員長
- ・ 日本フォレンジック看護学会 教育推進委員
- ・ 日本フォレンジック看護学会 渉外委員
- ・ 日本精神保健看護学会 プロジェクトメンバー

【社会活動】

- ・ 新潟保護観察所上越駐在官事務所 薬物再乱用防止プログラム ファシリテータ
- ・ 2022 年度第 2 回いきいきサロン講演「大人の発達障害-共に歩む-」2022, 6, 16
- ・ 日本フォレンジック看護学会教育推進委員会主催第 3 弾第 3 回精読会プレゼンター「加害者像と加害者臨床-ポリヴェーガル理論がもたらす希望」2022, 6, 27
- ・ 新潟県立長岡大手高等学校 2 学年対象講義「看護師が働く場所と役割」2022, 7, 13×2 コマ講義
- ・ 大阪公立大学法学部金澤ゼミ、國學院大学法学部安田ゼミ コメンテータ「受刑者、刑務所出所者の社会復帰支援を巡る意思決定、同意、動機づけ等に関するディスカッション」2022, 9, 2
- ・ 大学訪問模擬講義 長野吉田高校 1 年生 「統合失調症の理解」2022, 10, 20
- ・ 帝京大学医療技術学部看護学科公衆衛生看護分野アドバンスセミナー コメンテータ「看護の対象の多様性を理解し支援について考える～司法領域における看護について～」2022, 10, 26
- ・ 大学訪問模擬講義 長野県篠ノ井高校 2 年生 「統合失調症の理解」2022, 11, 2
- ・ 看護研究交流センター看護職学習支援公開講座 講義「研究成果を看護実践へ還元する-文献検索のポイント・読み方・活かし方-」2022, 11, 12
- ・ 日本福祉大学社会福祉総合研修センター 性暴力被害者支援看護職(SANE)養成プログラム 2022 講義「支援が行き届かない性暴力被害者の理解」2022, 11, 26
- ・ 一般社団法人よりそいネットおおさか 2022 年度よりそい専門研修会 講義「刑務所の中の医療とケア」2023, 2, 1-2023, 2, 28 オンデマンド配信

- ・ 新潟県上越地域振興局健康福祉環境部主催 令和4年度上越圏域障害者地域生活支援研修会 講師 2023, 2, 8
- ・ 新潟県上越地域振興局健康福祉環境部地域保健課主催 処遇困難事例検討会 助言者 2023, 3, 8
- ・ 障害福祉（就労支援）事業所職員研修会「支援技術スキルアップ研修」講師 2023, 3, 15(上越市内)
- ・ 障害福祉（就労継続支援B型・共同生活援助）事業所職員研修会「障害者障害者虐待防止研修」講師 2023, 3, 27×2 コマ(新潟市内)
- ・ 法務省新潟保護観察所主催 新潟県医療観察法制度訪問看護ステーション連絡協議会 ファシリテータ 2023, 3, 29
- ・ 上越地区BBS会 会員
- ・ 新潟トラブルシューターネットワーク 世話人
- ・ 刑務所出所者、触法障がい者の支援者からの相談や精神障がい者・知的障がい児者の人権擁護や(日本版性暴力対応看護師:SANE-Jとして)性に関する支援者からの相談に対応。

#### 【学内教育活動】

学 部：精神看護学Ⅱ, 精神看護学演習, 精神看護学実習, 総合実習(精神看護学), 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

#### 【学内委員会等の活動】

学生委員会委員, ハラスメント防止特別委員会委員, 看護研究交流センター看護職学習支援部門員  
学年担任

#### 【外部資金獲得】

- 1) 舩山健二(研究代表者)  
(2020～2023)：刑余者のヘルスケアニーズ，科学研究費助成事業（若手研究）
- 2) 谷本千恵(研究代表者)  
河西千秋、舩山健二、大江真吾(2019～2024)：患者の自殺を体験した精神科看護師のメンタルヘルスケアプログラムの開発，科学研究費助成事業(基盤研究C)
- 3) 五十嵐愛子(研究代表者)  
松下年子、日下修一、加藤陸、舩山健二、田村勝弘(2020～2022)：刑の一部執行猶予制度下における薬物依存症者の地域連携に関する研究、科学研究費助成事業(基盤研究C)

安達 寛人

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(なし)
5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

- ・ 上越地域振興局福祉環境部 令和4年度高齢者自殺予防研修会 講師
- ・ 看護研究交流センター出前講座「ハマるってどういうこと？」講師 花梨の会高田支部
- ・ 看護研究交流センター出前講座「ハマるってどういうこと？」講師 上越特別支援学校
- ・ 看護研究交流センター出前講座「ハマるってどういうこと？」講師 オギハラ工業
- ・ 精神科急性期病棟における睡眠改善に向けた取り組み
- ・ うつ病当事者の会「ひなたぼっこ」運営

【学内教育活動】

学 部：専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ, 総合実習精神看護学, 精神看護学Ⅱ, 領域別実習精神看護学  
博士前期課程：なし  
博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

実習委員会委員, 公立大学法人新潟県立看護大学創立20周年記念事業実行委員会 記念誌班委員, 看護研究  
交流センター地域課題研究開発部門員  
学年担任, 陸上サークルサークル顧問

【外部資金獲得】

なし

早藤 タ子

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(1 件)

- 1) 早藤タ子(2022. 11) : 精神科看護師の熟練過程における重要な経験, 語りの地平, 7, pp109 - 123 (査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(なし)

5. その他の研究活動(なし)

**【学会等における活動】**

なし

**【社会活動】**

なし

**【学内教育活動】**

学 部 : 精神看護学演習, 精神看護学実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ

博士前期課程 : なし

博士後期課程 : なし

**【学内委員会等の活動】**

学生委員会委員, 看護研究交流センター地域課題研究開発部門員

**【外部資金獲得】**

なし

高林 知佳子

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(1 件)

- 1) 土田雅美, 平澤則子, 高林知佳子(2023. 1): 出産から退院までに受けた産後うつ予防の保健指導と EPDS の関連について, 母性衛生, 63(4), pp881 - 889(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(3 件)

- 1) 青木靖子, 平澤則子, 高林知佳子(2022. 7): 地域包括ケア病棟における看護師の退院支援実践自己評価と関連要因, 第 27 回日本在宅ケア学会学術集会(東京)
- 2) 池田由貴, 平澤則子, 高林知佳子(2022. 8): A 県内市町村保健師の他職種・他機関との連携の困難な状況の分析, 日本地域看護学会第 25 回学術集会(富山)
- 3) 林友子, 平澤則子, 川野英子, 高林知佳子(2022. 9): 診療所看護師による食事・運動療法を主とする 2 型糖尿病患者への患者教育 CDEJ 資格を有する看護師を対象として, 第 27 回日本糖尿病教育・看護学会学術集会(大阪)

5. その他の研究活動(1 件)

- 1) 前川絵里子, 平澤則子, 高林知佳子, 野口裕子, 久保野裕子, 中村義実: 公衆衛生看護学実習における継続的な指導に関する文献研究, 令和 3 年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

- ・ 日本公衆衛生学会
- ・ 日本看護科学学会
- ・ 日本地域看護学会
- ・ 日本健康教育学会
- ・ 日本生殖看護学会
- ・ 日本看護管理学会
- ・ 日本難病看護学会
- ・ 日本糖尿病教育・看護学会
- ・ 日本母性衛生学会
- ・ 日本在宅ケア学会

【社会活動】

- ・ 妙高市こころと命のネットワーク会議委員
- ・ 上越市健康づくり推進協議会委員
- ・ 妙高市健康づくり推進協議会委員
- ・ 新潟県国民健康保険団体連合会保健事業支援・評価委員会委員
- ・ 上越市健康課題検討委員会委員
- ・ 令和 4 年度柏崎市保健師現任研修会講師
- ・ 令和 4 年度上越保健所 採用 1 年目保健師研修会(地域診断) 講師
- ・ 令和 4 年度上越保健所 採用 1 年目保健師研修会(事例検討) 講師
- ・ 令和 4 年度上越保健所 採用 3 年目保健師研修会講師
- ・ 令和 4 年度上越保健所 採用 4~5 年目保健師研修会講師
- ・ 全保教の国試委員会の臨時参加(問題分析の協力)
- ・ 令和 4 年度シニアリトミックの会 講師



- ・ 令和4年度上越教育大学・新潟県立看護大学連携公開講座講師
- ・ 富山福祉短期大学非常勤講師
- ・ 高田の郷地域包括センター地域ケア会議参加（グループワーク協力）

#### 【学内教育活動】

学 部：地域・在宅看護論Ⅰ，公衆衛生看護学概論，公衆衛生看護技術論Ⅰ，公衆衛生看護技術論Ⅱ，対象別公衆衛生看護活動論Ⅱ，公衆衛生看護学実習，在宅看護論演習，在宅看護論実習，公衆衛生看護管理論，看護行政論，疫学，看護研究法，専門ゼミナールⅠ，専門ゼミナールⅡ，総合実習  
 博士前期課程：地域看護学特論，地域看護学援助論Ⅰ，地域看護学援助論Ⅱ，地域看護学特別演習，看護学研究法  
 博士後期課程：なし

#### 【学内委員会等の活動】

国家試験対策・就職委員会委員長，教務委員会委員，入学委員会委員

#### 【外部資金獲得】

- 1) 高林知佳子(研究代表者)  
 (2020～2023)：主観的幸福感をトリガーとした家族介護者における介護予防行動促進モデルの構築，科学研究費助成事業(基盤研究C)

野口 裕子

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(3 件)
  - 1) 野口裕子, 表志津子, 岡本理恵, 池内里美, 平澤則子(2022. 12): 乳幼児を持つ養育者の災害への備えと子どもの防災に関する情報取得との関係, 第 11 回日本公衆衛生看護学会学術集会(仙台 (ハイブリット開催))
  - 2) 前川絵里子, 平澤則子, 野口裕子, 高林知佳子(2022. 12): 公衆衛生看護学実習における, 継続的な指導に関する文献検討, 第 11 回日本公衆衛生看護学会学術集会(仙台 (ハイブリット開催))
  - 3) Yuko Noguchi, Shizuko Omote, Rie Okamoto, Satomi Ikeuchi, Noriko Hirasawa(2023. 3): Factors Related to Disaster Preparedness among Caregivers of Infants and Toddlers, 26th East Asian Forum of Nursing Scholars(Eafons)2023(Tokyo, Japan)
5. その他の研究活動(1 件)
  - 1) 前川絵里子, 平澤則子, 野口裕子, 高林知佳子, 久保野裕子, 中村義実: 公衆衛生看護学実習における継続的な指導に関する文献研究, 令和 3 年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

- ・ 日本公衆衛生学会 会員
- ・ 日本災害看護学会 会員
- ・ 日本地域看護学会 会員
- ・ 日本子ども虐待防止学会 会員
- ・ 日本難病看護学会 会員
- ・ 日本看護科学学会 会員
- ・ 北関東医学会 会員
- ・ 日本公衆衛生看護学会 会員
- ・ 日本うつ病学会 会員

【社会活動】

- ・ 上越市建築審査会委員
- ・ 上越市建築紛争調整委員会委員
- ・ 上越市開発審査会委員
- ・ 看護研究交流センター主催「いきいきサロン」第 5 回テーマ自然災害に対する家庭での備え 講師
- ・ シニアリトミックの会 ミニ講座「自然災害に対する家庭での備え」講師

【学内教育活動】

学 部: 公衆衛生看護学概論, 公衆衛生看護技術論Ⅰ, 公衆衛生看護技術論Ⅱ, 対象別公衆衛生看護活動論Ⅰ, 対象別公衆衛生看護活動論Ⅲ, 公衆衛生看護管理論, 公衆衛生看護学演習, 公衆衛生看護学実習, 在宅看護論演習, 在宅看護論実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ, 災害看護活動論

博士前期課程: なし

博士後期課程: なし

【学内委員会等の活動】

災害時看護支援特別委員会副委員長, 入試広報委員会委員, 衛生委員会委員

**【外部資金獲得】**

- 1) 野口裕子(研究代表者)  
表志津子, 岡本理恵, 平澤則子(2020～2023): 乳幼児を持つ養育者の防災行動教育プログラムの開発,  
科学研究費助成事業(基盤研究C)
- 2) 平澤則子(研究代表者)  
野口裕子, 前川絵里子(2021～2024): 難病患者が生活困窮に陥らないための伴走型就労・孤立予防チー  
ムの構築に関する研究, 科学研究費助成事業(基盤研究C)
- 3) 関睦美(研究代表者)  
表志津子, 岡本理恵, 野口裕子, 山田恵子(2022～2026): 医療的ケア児の通常学校就学を可能にする学  
校看護師就労促進モデルの構築, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

関 睦美

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(なし)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(1 件)

1) 関睦美(2022. 12) : 特別支援学校と通常学校における学校看護師の役割、雇用に関する文献検討, 第 11 回日本公衆衛生看護学会学術集会(仙台・オンライン)

5. その他の研究活動(1 件)

1) 山田恵子, 関睦美, 上田恵, 大久保明子 : 救急外来で予期せず子どもを亡くした親のグリーフに影響を与えた看護師の関わり, 令和 3 年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

- ・ 妙高市 介護保険運営協議会委員
- ・ 新潟県保健福祉部 看護学生公衆衛生・在宅・母性看護実習指導者研修会 講師
- ・ 福井市 ボランティアグループ「あいじつ」
- ・ 子どもを亡くした家族の会「小さいのち」

【学内教育活動】

学 部 : 在宅看護学, 在宅看護論演習, 在宅看護論実習, 地域・在宅看護論Ⅰ, 総合実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ

博士前期課程 : がん看護学

博士後期課程 : なし

【学内委員会等の活動】

学生委員会委員, 実習委員会委員, 紀要委員会委員

令和 4 年度 研究推進委員会主催 教員研修会 講師

【外部資金獲得】

1) 関睦美(研究代表者)

表志津子、岡本理恵、山田恵子、野口裕子(2022～2026) : 医療的ケア児の通常学校就学を可能にする学校看護師就労促進モデルの構築, 科学研究費助成事業(基盤研究 C)

前川 絵里子

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(1 件)

- 1) 前川絵里子(2022. 6) : 難病患者の QOL を測定する SEIQoL の活用に向けた課題に関する文献レビュー, 難病と在宅ケア, 28 (3) , pp22 - 26(査読無)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(2 件)

- 1) 前川絵里子(2022. 12) : 公衆衛生看護学実習において住民への継続的な指導を目標とした実習内容と方法に関する文献検討, 日本公衆衛生看護学会学術集会(仙台市 (Web 同時開催) )
- 2) 斉藤真樹子(2022. 6) : 人生の最終段階と説明を受けた患者の家族などの代理決定者の葛藤, 日本老年看護学会(石川県金沢市 (Web 開催) )

5. その他の研究活動(1 件)

- 1) 前川絵里子, 平澤則子, 高林知佳子, 野口裕子, 久保野裕子, 中村義実 : 公衆衛生看護学実習における継続的な指導に関する文献研究, 令和 3 年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

- ・ 日本難病看護学会 広報・渉外委員会委員
- ・ 日本地域看護学会 会員
- ・ 日本公衆衛生学会 会員
- ・ 日本災害看護学会 会員
- ・ 日本公衆衛生看護学会 会員

【社会活動】

- ・ 新潟県パーキンソン病友の会上越地区
- ・ 神経難病療養者のケアマネジメントに対する介護支援専門員の認識 (仮題)

【学内教育活動】

学 部 : 公衆衛生看護技術論Ⅰ, 対象別公衆衛生看護活動論Ⅰ, 対象別公衆衛生看護活動論Ⅱ, 公衆衛生看護学演習, 公衆衛生看護学実習, 在宅看護論演習, 在宅看護論実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ, 総合実習

博士前期課程 : なし

博士後期課程 : なし

【学内委員会等の活動】

国家試験対策・就職委員会委員, ハラスメント防止特別委員会 (相談員) 相談員, 看護研究交流センター看護職学習支援部門員

学年担任, 国家試験対策セミナー (教員向け) 保健師国家試験対策

【外部資金獲得】

- 1) 平澤則子(研究代表者)

野口裕子, 前川絵里子(2021~2024) : 難病患者が生活困窮に陥らないための伴走型就労・孤立予防チームの構築に関する研究, 科学研究費助成事業(基盤研究 C)

久保野 裕子

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(なし)
5. その他の研究活動(1 件)
  - 1) 前川絵里子, 平澤則子, 野口裕子, 高林知佳子, 久保野裕子, 中村義実: 公衆衛生看護学実習における継続的な指導に関する文献研究, 令和3年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

学 部: 公衆衛生看護技術論Ⅰ, 公衆衛生看護技術論Ⅱ, 対象別公衆衛生看護活動論Ⅰ, 対象別公衆衛生看護活動論Ⅲ, 公衆衛生看護学演習, 公衆衛生看護学実習, 総合実習, 在宅看護論演習, 在宅看護論実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ

博士前期課程: なし

博士後期課程: なし

【学内委員会等の活動】

FD 委員会委員, 図書委員会委員

【外部資金獲得】

なし

# 各種委員会等の 活動報告

## 委員会活動報告掲載順

ハラスメント防止特別委員会	69
自己点検・評価特別委員会	70
情報ネットワーク特別委員会	71
国際交流委員会	73
災害時看護支援特別委員会	74
倫理委員会	75
教務委員会	76
実習委員会	79
学生委員会	80
研究推進委員会	82
F D委員会	84
国家試験対策・就職委員会	86
入試・広報委員会	88
図書委員会	91
紀要委員会	93
教学委員会	94
入学委員会	97



## 令和4年度 ハラスメント防止特別委員会活動報告

### 1. 委員会構成

委員：◎大久保 明子、○大竹 順司、岡村 典子、酒井 禎子、舩山 健二、山岸 美奈子

相談員：西田 絵美、徐 淑子、前川 絵里子、大倉 由貴

事務局：柳澤 義治、秋山 智章

### 2. 活動概要

#### (1) ハラスメント防止の啓発活動

新任の教職員、新入の学部生・大学院生を対象に、大学におけるハラスメント防止と相談対応についてガイダンスを実施し、リーフレットを配布して周知を図った。

また、ハラスメント防止の啓発ポスターを教員談話室や事務局内、学内掲示板に掲示し、意識づけを行った。

さらに、教職員を対象に、「アカデミック・ハラスメントの防止について」をテーマにオンライン研修会を開催した。

#### (2) ハラスメント相談対応

ハラスメント相談員にアクセスしやすいように、相談員の連絡先を記した名刺サイズのカードを作成し、男女トイレ、学部生の男女更衣室、院生室、教員談話室に設置した。

また、ハラスメント相談がしやすい環境を整えるため、引き続き上越教育大学の教員に学外相談員を委嘱した。

### 3. 次年度に向けた課題

(1) 研修会アンケートの結果、研修会の内容について参加者からは高評価であり、研修会の継続を望む意見が多かった。一方、具体的な取り組み等に関するグループワーク等の意見もあったため、研修会の内容や方法を検討する。

(2) 委員会にあげるまでには至らないが、学生及び教職員からの相談や通告があった。  
秘密を厳守しながら相談に対応しており、ハラスメント防止を引き続きの課題とする。

## 令和4年度 自己点検・評価特別委員会活動報告

### 1. 委員会構成

委員：◎大久保 明子、○大竹 順司、境原 三津夫、石田 和子、岡村 典子、堀江 正男  
事務局：秋山 智章

### 2. 活動概要

#### (1) 教員評価の実施（令和3年度業績に対する評価）

前年度末までに提出いただいた教員活動業績の自己申告シート（教育研究活動業績入力フォーム）を基に教員業績評価を集計し、集計結果を学長に報告した。学長が7月の教授会で教員業績評価の集計報告及び学長表彰者を公表し、学長表彰者2名に5万円ずつ個人研究費の追加配分を行った。

#### (2) 令和3年度自己点検評価報告書の編集

自己申告シート及び各委員会の活動報告を前年度末までに提出いただき、エラーチェック、エラー修正、集計作業を行い、5月末に本学リポジトリに登録した。

#### (3) 著者・論文数、学会発表数の集計

令和3年度の各教員の著書・論文数、及び学会発表数を集計し、法人計画の令和3年度実績値として計上した。

#### (4) 自己申告シートの検討

自己申告シートの入力等に関する教員からの意見がなかったため、形式や入力方法の修正や変更は行わなかった。

#### (5) 大学機関別認証評価に係る作業スケジュールの確認

令和6年度受審予定の大学機関別認証評価に係る作業スケジュールの確認を行った。

### 3. 次年度に向けた課題

令和4年度教育研究活動業績の評価・分析を行うとともに、令和6年度受審予定の大学機関別認証評価に係る点検・評価報告書の作成に取り組む。

## 令和4年度 情報ネットワーク特別委員会活動報告

### 1. 委員会構成

委員：◎永吉雅人、境原三津夫、大久保明子、大竹順司(事務局長)、  
柳澤義治(事務局次長)、秋山智章(教務学生課長)  
事務局：佐藤利和(庶務係長)

### 2. 活動概要

#### (1) 情報セキュリティ対策に関する規程の見直し

「政府機関等の情報セキュリティ対策のための統一基準群（令和3年度版）」に則り、「情報セキュリティインシデント対応チーム設置規程」を策定し、教授会で周知した。

#### (2) 電磁的記録媒体取扱要領の改正

電磁的記録媒体取扱要領の一部改正を行い、個人情報情報を保存した持ち出し可能な媒体の管理方法や持ち出す際の具体的な手続き等を定め、教授会で周知した。

#### (3) 情報ネットワークシステム賃貸借及び保守契約の更新手続き

契約の費用拡大に伴い、以下を決定し経費削減に努め更新を行った。

- ① Microsoft Skype を使用しない契約とする。
- ② 教育機関向け総合契約（OVSES）について、今回新しいライセンス特典として、教職員が契約すれば学生は無料でOfficeなどを使用できることになるため、学生の分は契約しないことにする。なお、それに伴い来年度からの入学生から卒業後はMicrosoft Officeの使用を許可・提供しないこととした。

#### (4) 文科省主催の情報セキュリティ関連の研修

計2名が参加し、情報セキュリティに関する理解を深めた。

#### (5) moodle 出欠モジュール追加の検討

要望書が出されたものの、moodle のバージョンアップを控えていることから、次回 moodle のバージョンアップ後に再度審議することとした。

#### (6) 新潟県立大学との情報基盤・セキュリティ対策の連携

文部科学省から、令和元年に、サイバーセキュリティ対策等の強化のために大学間等での連携の検討についての通知もあり、新潟県立大学からの声かけで、両大学の連携について前向きに協議した。しかしながら、その後、新潟県立大学学長からの助言により、新潟県立大学で進め方を再検討し提案されることとなった。

#### (7) 「上越妙高 IoT ビジネス共創ラボ」運営協力としての参加

本委員会では協議後、運営評議会で検討した結果、参加に異論はないものの、活動自体に不明な部分が多いため、上越市の対応を参考にして判断することとなった。その結果、設立時には上越市と同様に、本学の名前を出しての参加は見合わせることにした。

### 3. 次年度に向けた課題

情報環境が著しく変化し、迅速かつ安全なセキュリティ対策が必要とされる状況であるため、円滑かつ安全な情報環境の維持が図れる体制維持・整備が引き続き大きな課題である。

1. 委員構成

委 員：◎永吉雅人、柳澤義治（事務局次長）、佐藤利和（庶務係長）、  
秋山智章（教務学生課長）、山崎明彦（主任）、田村美和子（嘱託員）  
事務局：森さつき（任期付職員）

2. 活動概要

- (1) 自習室の情報機器の監視管理のための見回りは新型コロナウイルス感染症対策として見合わせた。
- (2) プリンター出力超過管理として毎月のプリンター出力を確認し、超過の学生に関して指導を行った。
- (3) Wi-Fi ルータおよび盗難防止システム確認  
Wi-Fi ルータおよび盗難防止装置としてネットワークカメラの稼働確認を行い、無線 LAN 環境と物品の保全につとめた。
- (4) アドレス帳の更新  
随時アドレス帳の更新を行い、学内ネットワークの保全につとめた。
- (5) セキュリティ情報の周知  
脆弱性を有するソフトウェアのアップデート依頼や不審メールなどの周知を行い、学内ネットワークの保全につとめた。
- (6) どこカレの管理・運用  
コース・カテゴリの管理者登録などの依頼に随時対応した。

## 令和4年度 国際交流委員会活動報告

### 1. 委員会構成

委員：◎樺澤 三奈子、○Simon Elderton、渡辺 弘之、葛城 美徳、佐々木 三和  
事務局：梅山 香織、宮崎 達也

### 2. 活動概要

#### (1) 法人計画 [54] 研究水準の向上や国際的な視野を養える国際交流事業

##### ① 国際交流セミナー

ア 6月27日(月)14:30～15:30 第2ホール(講師はon-line参加)

- ・主題：世界に羽ばたいた先輩たち「ウガンダでみつけたみんなちがって みんないい」
- ・講師：諸田 葉子氏（本学卒業生、JICA 青年海外協力隊員としてウガンダで従事）
- ・参加者：計12名(学部生5名、教職員7名)

イ 2月9日(木)13:00～14:00 第2ホール

- ・主題：日本語でのやりとりが困難な外国籍住民への医療支援・サポート
- ・講師：上越国際交流協会（以下、JOINとする）じょんなび 副代表 倉辻 忠俊氏  
同協会 じょんなび 登録通訳ボランティア 倉辻 厚子氏
- ・参加者：計18名(学部生5名、教職員13名)

#### (2) 法人計画 [55] 海外大学との交流協定締結・学生及び教員の国際交流促進

##### ① 国際交流オンライン交流会 6月9日(木)10:30～11:50 オンライン

令和3年度 国際看護演習の一プログラムであり、実施が延期されていたクライスト チャーチ工科大学（以下、Araとする）看護学部生とのオンライン交流会を開催した。

- ・主題：「COVID-19 パンデミック以降の看護学の学習状況と工夫」
- ・参加者：Ara 5名(学部生2名、教職員3名)、本学7名(学部生2名、教職員5名)

##### ② ニュージーランド看護研修 3月12日(日)～14泊(ホームステイ13泊・機中1泊)

Ara との連携に基づくニュージーランド看護研修を実施した。事故や罹病なく、全員がプログラムを完遂した。現地研修に先立ち、5回の事前研修にてニュージーランドの文化、保健医療制度、英会話、危機管理を学んだ。令和5年度前期に研修報告会を開催する。

- ・参加者：計6名(1年次生4名、2年次生1名、引率教員1名)

##### ③ 国際交流における危機管理対策の強化

②の研修実施に先立ち、感染症対応と、EAJ 社による留学生危機管理サービス「OSSMA」を盛り込んだ危機管理対策マニュアルおよび渡航安全ガイドブックの改訂を行った。現地研修中、国際交流委員会がEAJ 社・Ara との調整の窓口と参加者の安全確認を担った。

##### ④ 地域の国際交流団体との協力体制の維持

地域国際交流において協力関係にある JOIN および上越教育大学留学生支援センターとの交流の継続に取り組んだ。

- ・参加実績：上越教育大学主催 留学生と語る会(12月)、国際交流のつどい(3月)

### 3. 次年度の課題

Ara との国際交流協定に基づくニュージーランド看護研修の持続可能性の向上を図るために、参加者募集・学習成果・危機管理の観点から、本年度事業の検証を行い、精錬を図る。併せて、地域における国際交流への学生・教員の参画を促進するための方策を具体化する。

1. 委員会構成

委 員：◎堀江正男、○野口裕子、石原千晶、川島良子  
事務局：佐藤庶務係長、岡田庶務係主任

2. 活動概要

- (1) 教職員の緊急連絡網の随時更新と周知、危機管理初動対応マニュアル・震災対応マニュアルの周知を図った（4月）。
- (2) 学生に対する防災・減災教育として、4月にオリエンテーションを行い、学内の防災設備と避難経路、防災への日頃の備え、災害発生時の行動及び大学への安否報告方法及び鴨島地区の指定避難所等を周知した。また、学生への防災・減災啓発活動として、無印良品主催（新潟県共催）の防災イベント「いつものもしも CARAVAN 直江津」を周知した（10月）。
- (3) 教職員に対する防災・減災教育として、新潟県防災局危機対策課災害担当の専門家による研修会を開催した（8月）
- (4) 安否情報システムの活用では、学生と教職員へのメールアドレス登録のサポート及び安否報告訓練を学生・教職員を対象に3回（5月、10月、2月）実施した。今後同システムの効果的活用と災害発生時の迅速な安否確認を目的として作成した運用マニュアルの随時の見直しを行う。
- (5) 新潟県看護系大学等災害支援連携協議会では、今年度会長校として定例会議を主催し会員校、新潟県及び新潟市間の意識共有を図った（9月、3月）。同協議会では、新潟県の要請を受けて長岡保健所での新型コロナウイルス積極的疫学調査に協力し、本学からも3名の教員を派遣した（5月）。8月上旬の村上市・関川村豪雨災害においては、新潟県・会員校と連携して現地の保健相談活動の調整に関わった。また、日本看護系大学協議会災害支援活動員会中部ブロックにおいて、本学は新潟県看護系大学の代表校として担当者会議に参加し、活発な意見交換を行った。

3. 次年度に向けた課題

ANPIC 機能を活用するために、全学生と教職員のメールアドレスの登録サポートを継続するとともに、ANPIC 運用マニュアルの周知及びマニュアルの有効性を検証する。避難所開設支援を含めた実践的な研修や訓練を継続あるいは発展させ、有事に備える。

## 令和4年度 倫理委員会活動報告

### 1. 委員会構成

委員：◎常盤 洋子、○谷本 千恵、樺澤 三奈子、葛城 美徳、徐 淑子  
学外委員：村中 智彦、小林 優子、橋本 明浩  
事務局：柳澤 義治、宮崎 達也

### 2. 活動概要

#### (1) 倫理審査とその結果について

申請された倫理審査申請書（研究計画書）について、基本方針である「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」及び「公立大学法人新潟県立看護大学研究倫理規程」に則り審査を行った。

審査件数は総計 31 件（新規申請 23 件、変更申請 8 件）であり、令和 5 年 3 月末時点での承認件数は 22 件であった。なお、新型コロナウイルス感染症対策により申請者が来校困難となったこと及び県内に大雪警報が発令されたため、2 件の審査はオンラインで行った。

#### (2) 研究倫理研修会の開催について

令和 4 年 6 月 6 日に「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針ガイダンス」が一部改正されたこと及び令和 4 年 4 月～6 月までの委員会の審査状況等を踏まえ、倫理審査の視点を周知することを目的として研究倫理研修会をオンラインで開催した。

講師は、倫理委員会委員長が務め、本学の教員および大学院生を対象とした。研修会当日の参加人数は、教員 38 名、大学院生 21 名（本学教員は除く）であった。

研修会の欠席者については、当日の研修会を Zoom 録画したものを各自が動画視聴することにより、受講の代替とした。また、研修会出席および Zoom での動画視聴が確認された教員・大学院生計 88 名に受講証を発行した。研修会終了後のアンケート結果では、研修内容や日程については概ね良好であった。一方、研修内容の展開については事例を用いた解説の希望があった。また、指針改正に伴う倫理審査の視点について詳細な解説が必要との意見が複数見られたため、次年度の研修計画の参考とすることにした。

#### (3) 倫理審査委員会の運営で取り組んだことについて

本学の研究倫理規程の一部改正について審議し、審査結果通知書に承認番号を記載することが教育研究審議会承認され、教授会で報告した。

また、学内ドライブに倫理委員会の委員専用フォルダーを設置し、倫理審査業務の効率化を図った。これにより、審査内容を共有し審査の視点について共通の見解が図られ、審査が一層スムーズに行われるようになった。

また、倫理審査の視点を踏まえ倫理申請書類の書式を見直すとともに、申請手続きの効率化を目指し、次年度からオンライン申請システムを運用するため、オンライン申請マニュアルと審査マニュアルを作成した。

### 3. 次年度に向けた課題

オンライン申請システムの具体的な運用を図りつつ、次年度も引き続き審査の効率化を目指していく。

## 令和4年度 教務委員会活動報告

### 1. 委員会構成

委員：◎岡村典子、○大久保明子、常盤洋子、中村義実、谷本千恵、高林知佳子、  
酒井禎子、原等子

事務局：内山主事、星野（史）主任

### 2. 活動概要

#### (1) シラバスに関する事項（岡村委員、中村委員）

シラバスは、2023年度からの学務システムにおける掲載に伴い、従来のWordファイルによるシラバス作成から、学務システムへの入力となった。そのため、一ヶ月前倒しにて原稿依頼（システム入力）を開始し、原稿提出は、非常勤講師は昨年同様としたが、学内教員は一ヶ月早い期間に設定した。事前に、事務局より各科目のシラバス内容を入力したフォーマットを作成してもらったことから、入力する教員の負担は大幅に軽減されたと思われる。併せて、事務局には、入力にあたっての疑問や回答についても、学務システムQ&Aを作成し対応していただいた。入力内容は、従来と同様であることから、入力締め切り後は、担当者らにて、ディプロマポリシー、事前・事後学習、評価方法等の入力内容に不備がないか確認を行い、閲覧開始への準備を進めた。今後の課題として、新年度以降にシラバスの修正が生じた場合の対応（権限付与）等について、基準を明確にしていくことがあげられる。

#### (2) 時間割に関する事項（大久保委員、高林委員）

時間割作成は、原則として学外の非常勤講師の希望を優先し、その後本学の科目担当者の希望を考慮して作成した。4年次の時間割表の枠組みは、例年通り、看護師課程、看護師・保健師課程、看護師・助産師課程の課程別に表示できるよう作成した。

また、新カリキュラムと旧カリキュラムの移行期であり、令和5年度の時間割は、1.2年生が新カリキュラムによる授業単位数の変更等を考慮して作成することが必要であった。時間割希望の調整は、毎年苦慮するところであるが、非常勤講師に関しては、事務局担当者の協力を得て時間割を作成した。

加えて、学務システムを活用して、時間割を閲覧できるようにするため、時間割の作成時期を例年より1か月早め、2月の教務委員会と教授会で確定した。

次年度は、1～3年で新カリキュラムが適応になること、看護師・助産師課程が廃止されることを考慮した時間割作成が必要になる。

#### (3) 専門ゼミナールの実施に関する事項（原委員、谷本委員）

##### ① 看護研究フィールド調整

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症蔓延予防に伴う対応のために4年次の看護研究については実習病院の職員や患者等への公的な依頼をせず、指導教員個々の対応の範疇で実施することとしてフィールド調整は行わなかった。結果、文献研究は依然多かったが、実習事例の振り返り等の報告の他、インタビューやアンケート調査などが実施されていた。学生へのアンケート調査については委員会内で確認、調整をして学部長の調整により実施した。

課題：研究フィールドとしての実習4病院について以下の取り決めと調整を過去（コロナ禍前）に実施してきた。「看護研究のフィールドについての実習病院側の意向とフィールド依頼をする際の留意点」について全指導教員に周知を図る。実習4病院においては、看護管理者より希望する学生数が病院によって偏っていること、また部署の偏りによる対応困難を指摘されるなど調整に困難を要する。また、実習4病院以外の施設においても、倫理審査を受ける条件が付加される場合もあることそれに伴い、申請までの準備および承諾までの時間を要する可能性、研究開始の遅滞も考慮すること、さらに、研究フィールドとして病院を希望する場合は、早期にフィールド調整、研究計画書作成が必要となる事、調整担当教員および学生の負担増を検討する必要がある。

##### ② 専門ゼミナール希望調査と振り分け

専門ゼミナール希望調査を第3希望までとして1月にオリエンテーションを行い、実施した。学生数



が少ない学年であり、共通基礎系教員の配置は定員内として学生の第一希望を優先し、希望を尊重した配置を行ったが、一部看護学領域の希望者が少なく、一部の領域の第一希望の集中などがあり、全体の領域配置の中で定員よりも大幅に満たないところがあり、調整を要した。

(4) 看護研究発表会に関する事項（酒井委員、常盤委員）

12月13日（火）9:30～15:30に看護研究発表会（Zoom使用）を行い、計98名の4年次生が研究発表を行った。前年度に引き続き、COVID-19感染症感染拡大予防に配慮して遠隔により開催したが、自宅のネットワーク環境に支障がある学生には、講義室や情報科学教室を利用して参加できるようにした。関係機関ならびに4年生の保護者も遠隔より参加できるよう案内を行った。当日参加できなかった下級生・教職員等が視聴できるように、12月19日（月）9:30～16:00を再視聴日とした。全体として大きなトラブルなく終了した。アンケートから明らかになった次年度の課題として、Zoom開催の場合は、緊急時の連絡方法を周知すること、オリエンテーションの開催方法を検討すること、プログラムを全学年および教職員に紙媒体で配布することなどが指摘された。次年度は、対面開催を優先に開催方法を検討していく。

(5) 教務ガイダンス・成績及び実習先行要件の確認・各教育課程履修学生の確認（大久保委員、岡村委員）

教務ガイダンスは、担当者を決め例年通り学年別に半期ごとに実施し、各学年の履修科目の特徴や学習上の留意点等、学年に応じた内容の指導を行うとともに、ディプロマポリシーの学年別到達目標の配布を行い、各学年における到達目標の意識づけを図った。成績確認は、前期及び後期ごとに行い教授会に諮った。半期ごとのGPAが2.0未満（前期は2.5未満の学生も対象とした）の学生について、委員長が各クラス担任に学習支援を依頼し、指導状況の報告から適切に支援がなされていたことを確認した。また、3年次領域別実習の履修先行要件となる単位取得状況を正・副委員長で確認し、担当教員に周知するとともに学生にも掲示にて周知した。

看護師課程、看護師・保健師課程、看護師・助産師課程の履修者名簿および卒業要件を確認し、教授会で報告するとともに学生にも掲示にて周知した。さらに、3年次の12月を期限として教育課程変更の意思確認を行い、3年次生2名からの教育課程変更の希望があり、学長に報告し承諾を得たのち教育課程変更を認めた。

(6) 非常勤講師への対応及び採用、ゲストスピーカー申請の確認（事務局、岡村委員）

非常勤講師へは、初回講義開始前に辞令を交付するとともに、最終の試験監督を担えない場合は、教務委員と事務局が担当した。今年度は教務委員と事務局で全て対応できた。次年度の新規非常勤講師については、教務委員会、そして教育研究審議会にて審議し承認を得た。ゲストスピーカーの申請については、授業時数の1/3以内という規程、及び全体の予算額を確認・検討し、その結果を教育研究審議会と教授会にて報告した。

(7) 新カリキュラムにおける教育の取り組みと評価（岡村委員）

今年度より導入された新カリキュラムについては、法人計画にも掲げてあるPDCAサイクルを回すべく、適宜評価・チェックを行った。まず、新カリキュラムに関する意見交換会を9月、及び3月の二回開催し、学生の主体的な学びの促進、及び1単位当たりの授業時間数が半減することに対する授業の工夫や課題について検討を行った。領域を超えた教員間の意見交換は有意義であったとの意見が多く、今後も意見交換の機会を設け、教員間での情報共有及び課題の検討を引き続き行っていく。

また、一年生を対象としたアンケートを実施し、履修科目を通しての学びや主体的な学習に関する実態について調査した。結果より、選択必修科目による学びの充実とともに、科目選択時の情報の不足、また科目設定の理由や意義が十分に伝わっていないことが分かった。今後は、教務ガイダンスの際に科目選択時の留意事項を伝えるとともに、各科目担当者から当該科目の学修意義をインフォメーションすることに取り組んでいく。

(8) 学年別到達目標に関する自己評価の把握（原委員、高林委員）

学生が看護専門職としての自己の成長と課題を明確化し、教育方法等の工夫と改善に資する基礎的資料

を得ることを目的に、1～4 年次生を対象に「学年別到達目標到達度 自己評価に関する調査」を Moodle にて実施した。回収率は、1 年次生 94 名中 93 名 98.9%、2 年次生 97 名中 43 名 44.3%、3 年次生 93 名中 44 名 47.3%、4 年次生 97 名中 79 名 81.4%と、2 年次生と 3 年次生の回収率が低い結果となった。このうち新カリキュラムとなった 1 年次生は、DP7、DP5 が高く、DP4 が低い傾向にあった。一方、旧カリキュラムとなる 4 年次生は全体的に到達度が高い傾向にあったが、DP5 は低めであった。2 年次生は DP2 が他学年より低めであり、3 年次生は DP6 が他学年より低めであった。成長の実感では、2 年生がやや低めであったが、他の学年でほとんどの学生が成長を感じていた。またカリキュラムの満足感では 2 年次生が保健師コースの選択に関することで「やや不満足」と回答していた。

(9) 学務システムへの移行に伴う履修届とシラバス作成（事務局、岡村委員）

今年度は、後期の履修申請の際に、学務システムとの併用を行い、システムへの移行がスムーズに進むか、問題等はないかの確認を行った。システムにおける履修申請は、問題なく実施できたことから、次年度からの運用に向け準備を進めていく。併せて、学務システムへのシラバス掲載に向け、事前に各科目のシラバス内容をシステムに入力するなど準備を進めた。また、シラバスの入力にあたって、各科目を担当する教員への編集権限を付与する作業も実施した。概ね、入力作業はトラブルなく進められたことから、学務システムにおけるシラバス閲覧を開始する予定である。

(10) 遠隔授業と対面授業の対応（岡村委員）

今年度も、昨年度に引き続き看護交流センターの協力を得て非常勤講師の講義対応（遠隔授業）を進めることができた。また、新型コロナウイルス感染症（濃厚接触等）にて登校ができない学生に対しても、学習の機会を可能な限り提供していくためにハイブリッド（対面+遠隔）授業への対応が行われた。

今後は、「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針の変更及び卒業式におけるマスクの取扱い等について（周知）」（令和 5 年 2 月 10 日）を受け、指針として提示していた「グループワーク・演習実施ガイドライン」の見直しを進めるとともに、対面授業におけるマスク着用等を含めた感染対策の緩和等、運営評議会にて示された対策をもとに遠隔授業の対応も含め、適正に取り組んでいく。

(11) 演習物品等の適正な管理・運用のためのルール作成（岡村委員）

今年度 6 月に、各領域における演習物品等のリストを U ドライブ、教務委員会フォルダ、「【2022 年 6 月現在】各領域における演習物品リスト」フォルダ内に格納し、教授会にてその旨を発信した。使用については、“授業内容の変更を検討した時に活用した”、“どのような物品が実習室にあるのか把握できたので非常に助かった”、“本学での経験が浅い者にとって有難いリストになっている”等の意見が寄せられた。しかしながら、一部の領域の物品リストが“権限の関係で閲覧不可の状態になっており活用できなかった”との意見があった。この意見を受け、権限の確認等を行い全ての領域のリストが閲覧可能となった。

### 3. 次年度に向けた課題

(1) 新カリキュラムに関するアセスメントの継続

新カリキュラム導入 2 年目を迎えることから、引き続き PDCA サイクルを巡回させ、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーを達成すべく、カリキュラム運営に取り組んでいく。具体的には、教員を対象とした意見交換会、及び 1 年生・2 年生を対象としたアンケート調査を継続する。

(2) 学務システムの運用

学務システムの導入による成績管理等について、具体的な検討がスタートすることになる。問題なく活用できるか、検証するとともに、学生が経年的な自己評価に基づき成長と課題を明確化できるシステムの整備を進めていく。

(3) 大学機関別認証評価（R6）のあたったの教務委員会活動内容の振り返りと課題

認証評価のスケジュールを確認しながら、必要となる報告書の作成に取り掛かっていく。適宜教務委員会にて諮りながら、記載内容について検討を進めていく。

## 令和4年度 実習委員会活動報告

### 1. 委員会構成

委員：◎酒井 禎子、○西田 絵美、川島 良子、関 睦美、安達 寛人、  
東條 紀子、相澤 達也、伊藤 ひかる、(野澤 祥子)  
事務局：星野 史、内山 永遠

### 2. 活動概要

#### (1) 実習懇談会ならびに実習指導者研修会の開催

5月25日(水)に実習施設19施設39名、教職員32名の計71名が出席し実習懇談会を開催した。実習指導者研修会は、「新カリキュラム」をテーマとし、6月3日(金)に開催した。新カリキュラムとその実習の特徴に関する講演と、今後の実習指導に関するディスカッションの2部構成とした。対面・遠隔(講演のみ)を併用し、第1部(講演)は87名、第2部(ディスカッション)は26名の参加があった。

#### (2) 領域別実習の実習配置表作成とオリエンテーションの企画・運営

令和4年度3年次領域別実習配置表の作成を行い、6月15日(水)に領域別実習の全体オリエンテーションを実施した。

#### (3) 総合実習希望調査と各コースの学生配置表作成

令和5年度総合実習に向けて、1月6日(金)に対面・遠隔の併用でオリエンテーションを実施した。学生の希望調査をふまえて各コースへの学生配置を行った。

#### (4) 看護技術到達度リストの配布・集計及び改訂

看護技術到達度リストの1年生への配布を行うとともに、総合実習終了後に回収・集計し学生の技術習得状況を把握した。また、令和元年度に看護基礎教育検討会資料で提案された「看護師教育の技術項目と卒業時の到達度(案)」に基づいて、項目等の改訂を行った。

#### (5) 「臨地実習の概要」の改訂と実習要項の印刷

各実習要項を300部ずつ印刷した。また、「臨地実習の概要」の「気象警報発令時の休講等」について、学生便覧の改訂にあわせて改訂を行った。

#### (6) 継燈式開催における支援

7月19日(火)に第2ホールで2022年度継燈式を開催した。

#### (7) 実習における新型コロナウイルス感染防止対策

令和4年6月1日付けで「実習に伴う新型コロナウイルス感染防止対策について」「実習前の行動に伴う臨地実習停止に関する申し合わせ(教員用)」を改定した。

#### (8) その他

1年生のユニフォーム購入支援、実習物品の購入、実習で使用する講義室・演習室の調整を行った。また、「上越地域看護学実習連絡調整協議会」を9月26日(月)に開催した。

### 3. 次年度に向けた課題

実習におけるCOVID-19感染防止対策の見直しや新カリキュラムにおける実習体制の整備に向けた実習指導者研修会の企画と開催を行うとともに、引き続き現行カリキュラムおよび新カリキュラムにおける実習配置の調整を行っていくことが課題である。

## 令和4年度 学生委員会活動報告

### 1. 委員会構成

委員：◎高柳智子、○エルダトン サイモン、渡辺弘之、山田恵子、舩山健二、  
関睦美、西川美樹、谷内田潤子、早藤夕子  
事務局：亀井宣幸、新井里季

### 2. 活動概要

#### (1) 学生自治会活動支援

- ・新入生歓迎レセプションを4月7日(木)に対面実施した。
- ・球技大会を6月18日(土)に実施した。
- ・新型コロナウイルス感染症の流行状況を鑑み、自治総会については、夏季休講期間中にmoodleを用いて資料提示を行い、承認・非承認の投票を求める形式により実施した。
- ・桜蓮祭を11月6日(日)に、「一祭合祭 ～新時代～」をテーマとし、学部学生・教職員、事前承認を得た企画の関係者に限定し、対面開催した。開催内容は、実行委員会企画:1、サークル等:7、教職員企画:1の計9企画から構成され、100名程度の参加があった。実行委員会の編成から、予算執行、反省会の一連の過程においても、トラブルなく実施できた。
- ・高等教育コンソーシアムにいがた看護系大学タスクフォースの活動では、1月に発刊されたニュースレター（NSN通信第7号）を本学学生が寄稿した。

※ 今年度から、「自治会会計」、「桜蓮祭実行委員会会計」の預金先は、ゆうちょ銀行から、第四北越銀行へ変更となっている。

#### (2) 学生との意見交換会

- ・令和4年12月23日(金)に対面開催の予定であったが、大雪の影響により令和5年1月6日(金)17:00～18:00 オンライン開催に変更した。
- ・出席者は学生17名、教職員25名であった。
- ・学年別の課題や、授業、大学生活への要望、さらに学習時間について話し合われた。
- ・結果の活用は、内容の要約を参加した教職員に配布し、学生にはどこかレ掲示板に掲示した(3月)。

#### (3) 学生生活実態調査

- ・令和4年9月29日から10月21日にかけて、全学年を対象に「学生生活実態調査」を実施した。調査はオンラインアンケート方式を用いた。
- ・全体の回答率は60.7%で、学年別の回答率は1年生が100%、2年生が48%、3年生は38%、4年生が57%であった。
- ・学生生活実態調査の回答項目が多く、かつ多岐に渡ることから、回答協力への忌避につながる懸念が委員会でも指摘されていた。そのため回答者の負担を軽減する取り組みとして、重複する回答項目の統合や回答項目の削減など全面的に見直した。

#### (4) 学生の地域交流支援・学生のボランティア活動支援

- ・学生の地域交流支援:今まで参加していた高田祇園まつりの民謡流しは、一昨年度昨年度に引き続きコロナ禍により中止であった。
- ・学生のボランティア活動支援:大学近隣の市町村や団体からのボランティア募集が4件あり、感染予防対策やボランティア保険への加入等を確認したうえで掲示を行った。のべ5名の学生が参加した。

#### (5) 新入生オリエンテーション

- ・新入生オリエンテーションは、対面で4月8日(金)学内での自己・他己紹介／アイスブレイキング、4月9日(土)学内探検ツアーと歓談を企画・実施した。
- ・学内探検ツアーと歓談のガイドとして上級生24名の協力を得て行った。
- ・1年生同士の交流とともに、上級生と交流し、大学生活をイメージする機会となった。
- ・令和5年度の新入生オリエンテーションについても、コロナ禍の状況を考慮して企画した。

#### (6) 学修支援・学生相談・教育環境の向上他

- ・オフィスアワーを2回開催した。1回目は6月6日(月)～6月10日(金)に実施し学生33名の訪問が

あった。2回目は7月4日（月）～7月8日（金）に実施し、学生18名の訪問があった。

- ・学生相談者関係会議を6月と2月に2回開催し、学生相談を担当する学年担任や学内カウンセラー、学内保健師などとおもに学生の抱える問題を共有する機会を設けた。

(7) 各種奨学金等（受給者合計194名）

- ・日本学生支援機構：1年 45名、2年 49名、3年 29名、4年 47名  
前年度の成績（GPA）を基準に対象者を選別し、「警告」の対象となった奨学生に対し、学年担任より個別指導を行った。
- ・その他の奨学金：1年 4名、2年 6名、3年 11名、4年 3名

(8) 4年生担当

- ・4年次在学の過年度生に対し、適宜、就職や国試対策の相談対応を行った。
- ・必須科目授業の、座席指定や清掃当番の調整・とりまとめを行った。
- ・問い合わせ先が不明な案件の窓口として対応を行った。
- ・専門ゼミナール担当教員の未定期間や不在期間に、4年次生の相談対応を行った。

3. 次年度に向けた課題

(1) 新型コロナウイルス感染症の5類引き下げに伴う、自治会活動や地域交流への対応

新型コロナウイルス感染対策として、過去3年間にわたり桜蓮祭は外部からの集客は行わず、学生と教職員のみで開催した。また、高田祇園まつり民謡流しなどの地域イベントの開催もなかった。今後、新型コロナウイルス感染症の5類引き下げが検討されていることから、今まで自粛してきた自治会活動や地域交流について、学生が適切な運営や参加ができるよう支援していく必要がある。

(2) 学修支援・学生相談の充実

学生の抱える問題はクラス担任を中心に支援しているが、その問題は心身の健康や学修面をはじめ多岐にわたり、何らかの配慮や支援を要する学生が増加傾向にある。学生相談者関係会議メンバーと密に連携し、支援体制の充実に努める。

## 令和4年度 研究推進委員会活動報告

### 1. 委員会構成

委員：◎葛城 美德、○永吉 雅人、樺澤 三奈子、徐 淑子、  
事務局：岡田 優佳

### 2. 活動概要

(1) 教員の研究計画立案能力向上に向けた支援（Research Proposal Consultation 以下「R.P.C.」）について  
教員を対象として科研費申請書等の洗練に向け個別指導を受ける機会として、R.P.C.の周知を行ったが、本年度の応募件数は0であった。この結果を受け、全教員を対象にR.P.C.に関するアンケート調査を実施し、委員会内で協議した結果、R.P.C.の申請時期に業務が多忙であるとの回答に基づき、R.P.C.の周知を前倒しすることで本制度への応募を促していくこととなった。また、R.P.C. CAFEについては、これまでの助教・助手に加えて講師も対象とし、開催時期についても例年の8月から3月開催に変更した結果、昨年よりも7名多い10名の教員が参加した。参加者自身の研究遂行に関わる様々な問題を共有し、その克服に関しファシリテーターも交えたグループディスカッションを行った。事後アンケートの結果、参加者からは高い満足度を得られた。

#### (2) 研修会の開催について

令和5年3月7日（火）に第I部研修会「優れた研究計画書の作成」を開催した（第II部はR.P.C. café、(1)参照）。この研修会では、今年度新規に科研費が採択された学内の3名の教員が講師となり、科研費申請書作成上のノウハウについて講演が行われた。参加者した教員は24名であった。事後アンケートの結果、参加者の高い満足度がうかがえた。

#### (3) 科研費申請に関する説明会の開催について

令和4年8月29日（月）に科研費申請に関する説明会を対面で開催した。後日希望者が視聴できるようにするため、説明会の録画も行なった。

#### (4) 学内共同研究助成について

- ① 令和4年度学内共同研究助成を募集した結果、1件の応募があった。委員会にて審査を行い、委員会意見として学長へ報告し、応募のあった1件について研究助成を行うことを決定した。なお、審査実施前に審査基準の一部改訂を行った。
- ② 令和3年度採択の学内共同研究助成3件のうち、1件については研究開始の遅れにより研究期間延長を希望する申し出があり、委員会内で対応を協議した。新たに研究期間の延長措置に関する様式と基準を定め、学長の認可を得たうえで延長申請手続きを行っていただき、本件の研究期間延長が認められた。この1件を除く2件については、令和5年2月15日（水）の研究成果報告会にて、口頭発表による報告が行われた。参加者は39名であった。その後、この2件については提出期限内に研究成果報告書の提出を受けた。（延長申請の1件については、成果報告会での口頭発表および成果報告書の提出がそれぞれ1年先延ばしとなる。）

#### (5) 研究活動の活性化に資する本学図書館蔵書の展示について

図書委員会との合同企画「研究活動のためのおすすめ資料展示」を令和4年7月19日（火）から令和4年9月30日（金）までの期間、実施した。本企画の実施に先駆けて、研究能力向上や研究助成金獲得に資する図書を新規に10冊購入し、既存の図書と合わせて特別展示を行い、期間中に20件の貸し出しがあった。

#### (6) Researchmapへの登録促進と学内HPへのリンク作成について

全教員に対してResearchmapへの登録と業績等の記載を促すとともに、入試広報委員会と協力して令和

4年4月に学内HP内の各教員の紹介ページにResearchmapへのリンクを作成した。

(7) 新潟大学URAによる「知りたいことだけサクッとセミナー」への参加について

新潟大学URAと協議を行った結果、新潟大学URAが開催する科研費申請書作成に向けたオンラインセミナーに、本学教員が無料で参加できることとなった。令和4年6月の1か月間限定ではあったが、10名が参加し、事後アンケートの結果、このようなセミナーへの高いニーズがうかがえた。

(8) 英語論文投稿支援制度について

これまでに行った学内教員アンケートにおいて、英語論文作成のサポートを希望する意見が多かったことから、学内英語教員2名と協議を重ね、英語論文投稿支援制度の要項を作成した。令和4年10月から本支援制度の運用を開始した。

(9) 令和4年度・令和5年度科研費の新規申請件数と採択件数について

(2023年3月28日現在)

区 分	R4 申請件数	R4 採択件数	R5 申請件数	R5 採択件数
基盤研究 (S)	0	0	0	- (審査中)
基盤研究 (A)	0	0	0	0
基盤研究 (B)	1	1	0	0
基盤研究 (C)	14	2	12	4
挑戦的研究 (開拓)	0	0	0	- (審査中)
挑戦的研究 (萌芽)	0	0	0	- (審査中)
若手研究	0	0	3	1
合 計	15	3	15	5

3. 次年度に向けた課題

科研費申請件数の増加および採択率の向上に必要な方策を考え、実行する。

## 令和4年度 FD委員会活動報告

### 1. 委員会構成

委員：◎谷本千恵、○石原千晶、西田絵美、徐淑子 久保野裕子  
事務局：森さつき

### 2. 活動概要

#### (1) 教員の教育評価および教育能力の開発に関する事項

##### ① 学生による授業評価アンケート調査

昨年後期と同様にオンライン入力により従来どおり科目ごとの授業評価アンケートを実施した。

「全体集計結果」

前期の講義・演習科目の授業満足度の大学全体の平均は $4.4 \pm 0.8$ 、実習科目の授業満足度の大学全体の平均は $4.4 \pm 1.1$ で、法人計画評価目標値(4.2)を上回った。また昨年度からの課題である回収率向上のための取り組みについては、学内教員と非常勤講師への呼びかけの強化に加え、新たに全科目の回収率を教員にフィードバックした。また次年度より学務システムに移行するため、1、2年生の後期科目の一部で試行的に学務システムによる授業評価アンケートを実施した。

##### ② 授業公開の開催

例年、授業検討会として実施していた活動をベースに、今年度は新たな試みとして授業公開（教員相互の授業参観）を実施した。10月18日から11月11日の1か月間、10科目32コマが公開され、延べ21名の教員が参観した。事後アンケートを全教員対象に実施したところ27名より回答があり、授業の公開ならびに参観の有無にかかわらず概ね好意的な回答が得られた。「教育指導方法の学習のよい機会となる」「参観者からのポジティブフィードバックはとても嬉しかった」等自由記載からも、授業内容や方法の工夫、モチベーションを高める機会になったことがうかがえた。実施時期・方法についてもおおむね肯定的な意見が多かったため、次年度も引き続き実施していくこととした。

##### ③ 広報誌「FD通信第6号」の発行

昨年度までは学生と保護者に配布していたが、今年度は保護者宛てに配布した。内容も保護者向けに見直し、FD研修会や授業公開などを中心に構成した。また委員会用のアドレスを作成し掲載することで、読者の意見をフィードバックできるようにした。次年度も今年度と同様のページ数で発行を継続していく。

##### ④ FD研修会

新型コロナウイルスの影響により昨年度から延期となった上越教育大学の阿部隆幸教授による「グループ学習を効果的にすすめる教育方法論」を5月11日に実施した。密を避けるために参加者を講師、助手・助教の教員に絞り事前予約制とした。12名の参加があり、事後アンケートでは「具体的な内容を実際に体験しながら学習したので楽しく受講できた」等、受講者からの評価は高く、今後の教育実践に活かせる有意義な学びの機会となった。

### 3. 次年度に向けた課題

#### (1) 授業評価アンケート

次年度から授業評価アンケートが新学務システムへ移行するため、学生・教員双方がスムーズに新システムに適応できるよう周知するなど回収率の向上に向けて引き続き取り組む。加えて、学生がアンケートに回答する時間を授業時間内に確保してほしい旨、全教員に促していく。

#### (2) 授業公開（教員相互の授業参観）

期間内に開講されている科目のうち、授業公開に協力の得られた科目が限られていた。次年度に向けて、より積極的な授業公開への協力ならびに教員の参加率の向上について検討していく。



(3) FD 通信

発行時期について検討が必要である。例年、大学広報誌「ポルティコの広場」の保護者への送付時期に合わせて12月に発行しているが、今年度は授業公開の終了から間もなかったため、成果を十分に報告できなかった。また現状では写真が不鮮明であるため、魅力ある紙面づくりのために、紙質についても検討が必要である。

(4) FD 研修会

研修のテーマ・対象者について、引き続き検討が必要である。教員の年齢層や経験・専門はさまざまであり、全教員に共通するテーマを見つけるのは容易ではない。また1年を通して実習があるため、参加率が低い状況にある。参加時期・回数・方法についても検討が必要である。

## 1. 委員会構成

委員：◎高林知佳子（委員長）、○原等子（副委員長）、酒井禎子、山田恵子、佐々木三和、川島良子、  
谷内田潤子、前川絵里子、八巻ちひろ

事務局：新井里季

## 2. 活動概要

### (1) 国家試験対策の企画および実施について

#### ① 国家試験対策講義

国家試験対策講義は、昨年度の対策講義終了後に学生から挙げられた意見をふまえ、今年度は7月～10月の実施とした。その内容は、25回にわたる講義を系統的に行い、かつ、学生が講義に集中できるよう1日2コマ限定とした。さらに、対面授業とオンデマンドを使い分け、自分のペースで学習ができるようにした。また、ゼミ担当教員と国家試験対策委員が常に連携しながら学生の学習状況を把握し、必要に応じて学習指導を行った。国家試験のガイダンスにおいては、3年生向け看護師国家試験のガイダンスの導入編、4年生向け保健師国家試験のガイダンス、3年生向け看護師国家試験のガイダンスの対策編を実施した。さらに学生への国試対策指導を充実させるため、本学教員を対象としたセミナーを実施し、出題基準の改定、最近の国家試験の動向や出題傾向などに関して共通理解を深めた。

#### ② 国家試験模擬試験のサポート

業者模試および委員会作成の模試を、看護師は計9回、保健師は計4回、助産師は計3回実施した。模試の結果は、ゼミ担当教員および国家試験対策委員会で継続的にフォローし、必要に応じて学習指導を行った。

#### ③ 国家試験激励会および国家試験受験状況及び結果

今年度卒業生全員（97名）が看護師国家試験を受験した。保健師国家試験は88名が受験、助産師国家試験は3名が受験した。

国試受験者が受験票を受け取りに来る機会を使い、受験生を激励する会を開催した。

今年度の国試結果は以下のとおりである。

		受験者数	合格者数	合格率	全国合格率 (新卒のみ)	全国合格率 (既卒含む)
看	新卒	97名	95	97.9%	95.5%	90.8%
保	新卒	88名	85	96.6%	96.8%	93.7%
助	新卒	3名	3	100%	95.9%	95.6%

### (2) 進路指導について

昨年度のキャリアガイダンスでのアンケート結果で明らかになった学生のニーズを考慮し、かつ新型コロナウイルス感染症の予防対策も考慮しながら、学生がキャリア形成の意義を理解し自らの進路が決定できるよう学年別キャリアガイダンスを実施した。各キャリアガイダンスの事前事後にはアンケートを実施した。1年生に対しては、4年生や大学院生に自身の就職活動の経験を語ってもらう機会を設け、進路を決定した先輩との情報交換やアドバイスが受けられるよう工夫した。2年生に対しては、本学の卒業生（卒後2～3年の県内外で活躍する看護師、助産師、保健師、養護教諭）と本学大学院生によるスピーチを聴き、その後質疑応答を行った。3年生に対しては、ガイダンス後に4年生の就職活動経験についてのカタリバを設け、直前の就職活動への具体的な不安や行動につながる相談や助言を得るピア活動の機会を提供した。4年生に対しては、学生が集まりやすい看護研究発表会説明会後の開催とし、就職後のリアリティショックを緩和し、円滑に職場に入ることを支援するため、就職後1年程度の卒業生による講演会及び意見交換会、ナースセンター職員による卒後研修、キャリアアップ、再就職支援の説明を行った。

また、月1回の委員会では、進路（就職・進学）届の確認や委員同士の情報交換を行い、進路状況に課題がある場合はゼミに持ち帰り、学生対応を行った。また、年度初めの教学オリエンテーションにおいてはそれぞれの学年に応じた説明を行い、国家試験対策・就職委員会メンバーを紹介するとともに、各学年掲示板（Moodle）において掲示し、学生が相談しやすい体制を周知した。

今年度の進路状況は、就職90名（県内64.4%、県外35.6%）、進学4名（県内50.0%、県外50.0%）（←2023.2.28時点）であった。

### (3) 求人訪問対応と進路情報の提供

昨年度は、新型コロナウイルス感染症対策により、直接来学しての求人訪問が4件と少なかったが、今年度は13件の求人訪問があり、コロナ禍での学修状況について医療機関等に情報提供を行うとともに、コロナ禍における現任教育の状況についての情報収集を行った。求人訪問に来校する施設の責任者、就職担当者とは、その都度、本学学生の就職に関する情報の提供や、先方との情報交換を行った。

### (4) 進路状況調査

進路ガイダンス、国家試験手続き、ゼミを通じて学生に周知した。

### (5) 就職活動実態調査

4年生を対象として就職活動に関する調査を実施した（回収率77.3%）。今期の4年生の就職活動は、採用側の病院も試験を受ける学校や学生も経験知を経て感染対策を取りながら、従来の形式に戻して実施するようになっていた。就職関連の情報収集は、インターシップ再開施設も増え、合同説明会もオンラインでの実施は継続しつつ、対面で実施するようになっていた。進路決定に「困ったことがあった」「少し困った」者が5割程度であったが、2020年度、2021年度と比較すると徐々に減少しており、心置きなく希望する就職活動をすすめていくことができる平常に戻りつつあることがわかった。

## 3. 次年度に向けた課題

- ・国家試験対策のボトムアップ、気がかりな学生への対応方法、受験間近になってからの成績降下者への対策について引き続き検討していく。
- ・4年生へのキャリアガイダンスの周知と参加の促しについて工夫する。
- ・学生が本学で実施している新型コロナウイルス感染症対策を守りながら就職活動を適切な時期に余裕をもってできるための声かけや注意喚起を適宜していく。
- ・求人訪問に来校する事業所に対し、相互に情報発信できるよう努めていくとともに、学生に対し速やかに情報提供をしていく。

## 令和4年度 入試・広報委員会活動報告

### 1. 委員会構成

委員：◎中村 義実、○堀江 正男、○伊豆上 智子、永吉 雅人、佐々木 三和、  
野口 裕子、西川 美樹、石岡 幸恵、山岸 美奈子、大倉 由貴、東條 紀子、  
相澤 達也、伊藤 美由紀  
事務局：秋山 智章、関口 詩織、山崎 明彦（敬称略）

### 2. 活動概要

#### (1) 入試実施本部会議に関する事項

令和5年度入学試験の実施状況

学校推薦型選抜・社会人選抜（11/19）、一般選抜〔前期日程（2/25）、後期日程（3/12）〕を実施した。追加合格者1名を含め、総計100名が選抜され、93名（辞退者7名）が入学手続きを行った。推薦の志願倍率は1.63倍（実質倍率1.63倍）、一般の志願倍率は3.80倍（実質倍率1.44倍）だった。前年度、前々年度を含めた詳細は下表参照。

令和5年度入学者選抜実績（令和5年3月31日現在） **R5(上段)/R4(中段)/R3(下段)**

	募集人員 (人)	志願者数 (人)	志願倍率 (倍)	受験者数 (人)	受験率 (%)	受験倍率 (倍)	合格者数 (人) (辞退者数)	実質倍率 (倍)	入学者数
学校推薦型 選抜	<b>40</b>	<b>65</b>	<b>1.63</b>	<b>65</b>	<b>100</b>	<b>1.63</b>	<b>40</b>	<b>1.63</b>	<b>40</b>
	35	80	2.29	80	100	2.29	36	2.22	36
	35	67	1.91	67	100	1.91	35	1.91	35
社会人選抜	<b>若干名</b>	<b>0</b>	<b>-</b>	<b>-</b>	<b>-</b>	<b>-</b>	<b>-</b>	<b>-</b>	<b>0</b>
	若干名	1	-	1	100	-	0	-	0
	若干名	0	-	-	-	-	-	-	0
一般選抜 (前)	<b>45</b>	<b>68</b>	<b>1.51</b>	<b>61</b>	<b>89.7</b>	<b>1.36</b>	<b>45 (3)</b>	<b>1.36</b>	<b>42</b>
	50	233	4.66	212	91.0	4.24	52 (7)	4.08	45
	50	66	1.32	63	95.5	1.26	51 (4)	1.24	47
一般選抜 (後)	<b>10</b>	<b>141</b>	<b>14.1</b>	<b>24</b>	<b>17</b>	<b>2.4</b>	<b>14 (4)</b>	<b>1.71</b>	<b>10</b>
	10	263	26.3	86	32.7	8.6	15 (2)	5.73	13
	10	117	11.7	27	23.1	2.7	13 (5)	2.08	8
追加合格	<b>-</b>	<b>-</b>	<b>-</b>	<b>-</b>	<b>-</b>	<b>-</b>	<b>1</b>	<b>-</b>	<b>1</b>
	-	-	-	-	-	-	1	-	1
	-	-	-	-	-	-	5 (1)	-	4
一般選抜 (計)	<b>55</b>	<b>209</b>	<b>3.80</b>	<b>85</b>	<b>40.7</b>	<b>1.55</b>	<b>59 (7)</b>	<b>1.44</b>	<b>53</b>
	60	496	8.27	298	60.1	4.97	67 (9)	4.45	59
	60	183	3.05	90	49.2	1.5	69 (10)	1.30	59
総計	<b>95</b>	<b>274</b>	<b>2.88</b>	<b>150</b>	<b>54.7</b>	<b>1.58</b>	<b>100 (7)</b>	<b>1.52</b>	<b>93</b>
	95	577	6.07	379	65.7	3.99	104 (9)	3.64	95
	95	250	2.63	157	62.8	1.65	104 (10)	1.51	94

推薦及び一般選抜従事者のための学内説明会（推薦11/9、一般前期・後期2/8）、入試実施本部会議における合否判定（推薦11/30、前期3/2、後期3/17）、合格発表（推薦12/2、前期3/6、後期3/20）を実施した。その他、科目等履修生入学試験、聴講生選考の概要の提案を行った。

#### (2) 大学入学共通テストの実施に関する事項

大学入学共通テスト（1/14、1/15）を実施した。試験従事者説明会およびリスニング説明会（12/22）を実施した。

### (3) 入試問題の作成、管理、実施に関する事項

「入学者選抜におけるミス防止マニュアル」に基づいて各入学試験を実施した。チェック体制を強化し、ミス防止に万全を尽くした。大学入学共通テストに関しては、問題の受け取り、仕分け、保管などを厳正な管理のもとに行い、全ての業務に関して厳正かつ適正に行った。いずれの試験においても、問題ミスや大きなトラブルが発生することなく無事に終了した。

### (4) 学生募集に関する事項

#### ① オープンキャンパス、出前講義、大学説明会、学内見学について

3年ぶりとなる対面型オープンキャンパスは、8/6（土）、8/7（日）の計2回実施し、それぞれ、148名、143名（うち高校生88名、89名）が参加した。感染症禍のピーク下、各日、定員制（高校生96名、保護者96名）を設け、午前・午後の二部方式を導入するなど、感染症防止対策を徹底して無事終了した。保護者向け「看護職のキャリア」の資料を作成し、説明の時間を設けた。

Web オープンキャンパスは、模擬講義、授業風景のコンテンツを拡充し、7月下旬から3月までの常時本学ホームページ上で開設し、視聴者は約1,200名に達した。

出前講義は、16教員による26講義の登録があり、年度を通して延べ8回の講義が実施された。進学説明会には18回の参加（うちオンライン参加5回）、学内見学の受入れは9回行った。

#### ② 高校訪問について

高校訪問を9月～10月にかけて計50校を訪問した。上越8校、中越19校、下越21校に加え、県外（長野県2校）に範囲を広げ、本学のPR、ならびに高大連携の強化を図った。

#### ③ 夢ナビへの参加について

前年度に引き続き本学教員2名が大学の研究・教育をオンラインで発信する「夢ナビ」プログラムへ参加した。7月の講義ライブ（講義動画を視聴）および研究室訪問（講義動画を見てZoom上で直接教員に質問する）では、全国からそれぞれ541名、298名の高校生が参加した。

#### ④ 大学案内・広報誌の作成

受験生用に大学案内（キャンパスガイド）を作成し6月に発行した。また、学生・一般向けに広報誌（ポルティコの広場）第40号を12月に発行した。

#### ⑤ 大学のホームページに関する事項

入試関連の情報を随時更新するなど、大学ホームページの管理及び運営を行った。また、2021年12月に開設したSNSの大学アカウントでは、以来、17件の記事（21年度:5件、22年度:12件）を掲載し、大学を取り巻くコミュニティに向けて大学情報の発信を定期的に行った。

### 3. 次年度に向けた課題

令和5年度入試（以下R5）はいずれの区分においても志願者数が前年度（R4）より大幅に減少した。志願者数は、R3→4→5の順で、推薦67→80→65名、一般前期66→233→68名、一般後期117→263→141名と推移した。R4に過去に類を見ない志願者増があり、隔年現象の影響を受けたとする見方も可能であるが、R5受験者数でみると、前期は61名で過去最少、後期24名は過去2番目に少ない数値で、全体の実質倍率はR3を下回り過去最低となった。総合的に見て、本学を取り巻く入試状況の厳しさが顕著に表れる結果となった。募集人員の変更（推薦5名増、一般前期5名減）がプラスに作用し、一般前期と後期の合格最低点のバランスは保たれた。

県内受験者数（一般・前+後）の割合は、R3→4→5で、76.7→52.0→70.6%と上昇した。上・中・下越の受験者数の割合をみると、推薦は上越23.9→22.5→18.5%、中越25.4→36.3→30.8%、下越50.7→41.2→50.7%と下越が例年通り優勢を保った。一般（前+後）では、上越23.2→14.8→31.7%、中越27.5→32.3→31.7%、下越49.3→52.9→36.6%で、上越が増加し、下越が減少した。男子受験者数の割合は、推薦6.0→5.0→20.0%、一般（前+後）7.8→12.4→23.5%と両者とも顕著に増加した。

R5の入学手続き者数は、県内73名、県外20名となり、県内比がほぼ8割に上昇した（R3→4→5:73.4→66.3→78.5%）。一般に限れば、県内33名（受験者数60名）、県外20名（受験者数25名）と62.2%に下がる。県内73名の内訳は上越13名、中越27名、下越33名で、R3→4→5で、上越22.5→20.6→17.8%、中越32.5→33.3→37.0%、下越45.0→46.0→45.2%とほぼ例年通りに推移した。男女比では、男子

入学者数が20名（21.5%）となり、過去最高の13名（H26、R4）を大きく上回る変化が示された。

18歳人口の減少に加え、県内では、R5に看護学部が1大学で増設され、R6には新しい看護系大学の設置が予定されている。全体の状況を見極めつつ、引き続き、全学を挙げての大学の魅力作り、時代に即応した新規の広報活動の展開が求められる。

## 令和4年度 図書委員会活動報告

### 1. 委員会構成

委員：◎堀江正男、○石田和子、石原千晶、久保野裕子、坂田智佳子  
事務局：亀井宣幸、飯田孝枝

### 2. 活動概要

#### (1) 管理運営

- ① 図書館費 12,799 千円
- ② 入館者数、貸出冊数、文献依頼件数、上教大及び上越市立図書館との連携による文献複写・現物貸借数、データベース及び電子ジャーナル利用回数などの利用統計を月別にまとめ分析した。
- ③ 各種協議会・研修会等への参加
  - ・新潟県大学図書館協議会総会（ZOOM）（飯田職員）
  - ・新潟県大学図書館協議会研修会（ZOOM）（飯田職員）
  - ・公立大学協会図書館協議会 総会（ZOOM）（館長・飯田職員）
  - ・公立大学協会図書館協議会関東・甲信越地区館会議（書面審議）
  - ・上越市立図書館・上越教育大学附属図書館との実務担当者会議（飯田職員）
  - ・2022 年度第 1 回千葉大学アカデミック・リンク/ALPS セミナー（ZOOM）（飯田職員）
  - ・図書館に向けた図書館等公衆送信サービス説明会（ZOOM）（飯田職員）
  - ・国立大学図書館協会セミナー「災害と図書館」（ZOOM）（飯田職員）
  - ・CAT/ILL リプレイス&電子リソースデータ共有サービス説明会（ZOOM）（飯田職員）
- ④ 上越教育大学附属図書館、上越市立図書館と本学図書館との三者連携事業として、以下の取組を実施した。
  - ・上越市立図書館との蔵書交換展示会  
期間：5 月 16 日～7 月 11 日  
交換展示図書：50 冊
  - ・上越教育大学附属図書館との蔵書交換展示会  
期間：10 月 3 日～11 月 30 日  
交換展示図書：100 冊
  - ・図書館資料の相互貸借、レファレンス
  - ・おすすめブックリストの作成
- ⑤ 蔵書点検  
図書館 2 月 15 日～2 月 22 日、研究室 1 月 5 日～27 日に実施した。
- ⑥ 電子ジャーナル及びデータベース契約の見直し  
大幅な値上がりが見込まれる電子ジャーナル及びデータベース契約について、利用状況、利用者ニーズ及び費用対効果等を確認した上で、契約内容を見直し、5 タイトルの電子ジャーナルの削減と、データベース 1 種の下位グレード契約を行った。

#### (2) 図書館のちからプロジェクト

図書館の利用促進を図るプロジェクトとして以下の活動を行った。

- ・ブックハンティング（10 月 26 日）

学部生 4 名が市内の書店で直接選書を行い 28 冊購入した。購入した図書は学生作成の POP を付けて館内展示した。

#### (3) 広報活動

「新潟県立看護大学図書館 Library Newsletter」No.46 を 11 月に発行した。主な配布先は、学生・教職員のほか、県内大学図書館・病院を中心に 72 箇所であった。

(4) 図書館ホームページ

教員推薦図書「おすすめの一冊」として、学内教員に原稿執筆を依頼し掲載した。

(5) 図書購入

① 教員選書図書及び推薦図書

予算 630,000 円で選書図書及び推薦図書を募った。結果、図書 124 冊の推薦があり全てを購入した。

② 学生リクエスト図書

学生より 6 冊のリクエストがあり、6 冊を購入した。

(6) 雑誌購入

一般雑誌の継続契約について、利用者のニーズを把握するため希望アンケートを行うと共に通年で利用状況調査を実施し、その結果に基づき購読雑誌の見直しを行った。

(7) 蔵書の更新・除籍に関すること (R5.2 月末現在)

① 寄贈図書：図書 437 冊

② 除籍：図書 571 冊

(8) リポジトリ

リポジトリへの登録を全教員に呼びかけ、さらに学会誌に論文を発表した教員に対して個別に登録を依頼した。その結果、学術論文を 3 件登録し、累計 62 件となった。他にも学内発行物を 9 件登録した。

(9) その他

① 新型コロナウイルス感染症対策

- ・図書と文献の郵送サービスを実施し、文献 8 件の利用があった。
- ・学外者の事前予約サービスを行い、来館者数を制限した。

② 企画展示

- ・新入生に向けた「看護大生のためのスタートブック」の展示を行った  
新入生向けのブックリストを作成し、新入生ガイダンスで配布した。3 月 1 日から 4 月 30 日まで展示を行った。
- ・研究推進委員会との合同企画展示  
図書の展示あるいは蔵書紹介をとおして、研究計画策定、ことに科研費調書作成に資する情報の共有や、意欲の喚起を図るため、7 月 19 日～9 月 30 日まで研究推進委員会との合同企画展示を行った。
  - ・認知症を知ろう！世界アルツハイマーデー  
「認知症の人と家族の会」との共催で「認知症を知ろう！世界アルツハイマーデー」の展示を 9 月 1 日～30 日に実施した。

③ 施設修繕工事

- ・排煙窓・電動ブラインド修繕工事（工事期間：令和 5 年 3 月 13 日～3 月 22 日）を実施した。

3. 次年度に向けた課題

- ・新規購入図書のスペースを確保するため、古い雑誌、古い図書の除籍をさらに進める。
- ・図書館のちからプロジェクトを今後も継続する。



## 令和4年度 紀要委員会活動報告

### 1. 委員会構成

委員：◎伊豆上 智子, Elderton Simon, ○小林 綾子, 関 睦美  
事務局：亀井 宣幸, 飯田 孝枝

### 2. 活動概要

#### (1) 新潟県立看護大学紀要第12巻発行

3月初旬の発行に向けて年間計画を立案し、本学大学院ガイダンス、教授会、本学ホームページで原稿の投稿を呼びかけた。本学紀要投稿要項および査読要項を改定し、査読意見を受けた投稿原稿の再提出期間を2週間から3週間に変更したことに伴い、投稿原稿の受付は昨年度より約1か月早く締め切った。2編の原稿の投稿があり、本学紀要査読要項に従って査読者を選出して採否を検討し、2編の論文(原著1編、資料1編)の掲載を決定した。今年度から本学大学院学位論文の執筆要領がAPA方式に改められたため、大学院学位論文作成要項の文献記載に指定されている本学紀要投稿要項8. 執筆要領(10) 文献の記載は、APA方式に準じて整えている。

令和4年10月15日に举行された本学創立20周年記念式典時の記念講演について、創立20周年記念事業実行委員長を通じて寄稿を依頼し、承諾を得て巻頭に掲載した。

紀要第12巻は電子ジャーナルとして発行するため、本学リポジトリ(にこナース)に登録して令和5年3月8日に公開した。

#### (2) 新潟県立看護大学紀要投稿要項等の改定

今年度の投稿原稿を本学紀要投稿要項に基づいて点検し、英文表題と英文著者名の表記方法、図表の作成と電子ファイル提出時の注意事項を中心に説明を加え、原稿提出先として新たに取得した紀要編集係メールアドレスに改めた。併せて、昨年度の改定箇所の表現を修正し、投稿原稿に添付する「投稿チェックリスト」の該当項目を整えた。

#### (3) 予算の執行状況について

令和4年度の予算額100,000円の執行額は82,500円であった。

#### (4) その他

令和4年1月から12月の本学紀要(第1～11巻)のダウンロード数は13,282件だった。

### 3. 次年度に向けた課題

新潟県立看護大学紀要第13巻を発行予定である。投稿原稿の掲載率は昨年度に比して向上したが、投稿原稿数の増加と投稿原稿の掲載率向上は引き続き課題である。改定した本学紀要投稿要項と本学紀要査読要項に沿って投稿原稿の査読をすすめる、投稿原稿の著者と査読者が共通認識できるように適宜働きかけながら取り組む。

## 令和4年度 教学委員会活動報告

### 1. 委員会構成

委員：◎石田和子 ○高柳智子 大久保明子 岡村典子 伊豆上智子 常盤洋子  
高林知佳子 谷本千恵 原等子

事務局：亀井図書学生係長 星野主任

### 2. 活動概要

#### (1) 年間活動計画

令和4年度大学院の教務運営に関して研究科委員会と連動した年間活動計画を立て活動した。また、本委員会の記録については、亀井図書学生係長と星野主任が交互に担当することとされた。

令和4年度の教学委員会内の役割分担を検討した。以下のとおり決定した。

役 割	担 当
教育環境整備	石田教授 常盤教授
論文発表会	岡村教授 高林教授 原准教授
学生便覧	岡村教授 伊豆上教授 谷本教授
シラバス	高柳教授 石田教授 伊豆上教授 谷本教授
時間割	大久保教授 事務局
博士後期課程専任教員審査	石田教授 高柳教授 常盤教授
大学院教育課程検討委員会	石田教授 高柳教授 常盤教授

「大学院教育課程検討委員会」では博士前期課程・助産師養成課程の開講と博士後期課程の教育内容の編成を担当した。

#### (2) 教育環境整備

##### ① コロナウイルス拡大に伴う措置

ア 大学院生に ZOOM のインストール方法および使用方法を指導し必要に応じて遠隔授業を開始した。

イ 対面授業により密が予測される場合や専門看護師実習、研究論文および計画書審査時などはフェイスシールドを着用するようにした。

ウ 学生の不利にならないよう、共通必須科目については遠隔授業対応が中心とする。専門領域は各領域で対応することが確認された。

##### ② 大学院博士後期課程における教育研究組織の編成

助産師コース開設に向けて準備を進めている。それに伴い、博士後期課程の教育研究組織を変更した。

##### ③ 専門看護師コース実習状況

新型コロナウイルス拡大により、がん看護専門看護師コースでは、がん高度実践看護学実習Ⅰが予定(9月)に実施できず10月に移行した。それに伴い、がん高度実践看護学実習Ⅱを11月となった。がん高度実践看護学実習Ⅲ・Ⅳ・Ⅴは予定通り行えた。老年においては、対象者はいない。

##### ④ 学生便覧の修正について

学生便覧については、詳細な修正を行うことが承認された。大学院博士後期課程の博士論文の公表(リポジトリ登録方法)については、2020年に図書委員会で検討されている。しかし、学生便覧では使用が難しい点があるため、図書委員会および教学委員会メンバー(代表)にてワーキング(学長承認)で行い6月研究科委員会を目指して作成する予定である。

⑤ 時間割

昨年度、時間割編成の基本的な考え方や表枠・入力方法等を整理し事務局へ引きつがれた。看護基盤分野及び共通基盤分野科目を記載した時間割が3月に作成された後、各領域別科目を記載した時間割を作成すること、学生への説明は、入学ガイダンス時及び領域別ガイダンス時に行うこととなった。

⑥ 新入生および学年ガイダンス

入学式当日、新入学博士後期課程1名及び博士前期課程6名に対してガイダンスを行い、同日、D2およびD3・M2生に対してもガイダンスを実施した。D3・M2生に対しては論文提出および審査日程の確認について資料を用いて説明を行った。

⑦ シラバス

博士前期課程及び博士後期課程におけるシラバスの見直しを行った。成績評価基準についても委員会にて見直した。博士後期課程シラバスにおいて授業科目に英語表記を加えた。

(3) 学位論文審査および発表会

① 学位論文審査

博士前期課程学位論文は7名（内訳は研究コース4名、CNSコース3名）から提出があり、論文審査委員会を組織して論文審査・口頭試問を行った。結果、全員合格と認定され修了要件を確認して研究科委員会の審議を経て全員修了の運びとなった。

博士後期課程学位論文は2名（内訳は精神看護学領域2名）から提出があり、予備審査および本審査、博士論文公開審査をおこなった。結果、全員合格と認定され修了要件を確認し研究科委員会の審査を経て全員修了の運びとなった。

② 博士前期課程学位論文発表会の開催

学位論文発表会は令和5年3月3日に行われた。今年度は新型コロナウイルス（Covid-19）感染予防を徹底し、今年度はzoomを併用した発表会は行わず、教職員、発表予定大学院生のみでの出席とした。

(4) 高度な看護の専門性を高めるための教育

① 大学院生向け特別セミナーの開催

大学院セミナーは令和4年8月10日に聖路加国際大学大学院看護学研究科特命教授木下康仁先生を講師として招聘し、遠隔講義により「看護研究における修正版グラウンデッドセオリー（M-GTA）の実勢」というテーマで実施した。大学院生及び教員など54名の参加があった。M-GTAから質的研究についての講義もあり学びの多い講義であり参加者からは大変に好評であった。

② 特任講師実践活動報告会（専門看護師実践活動報告会）の開催

令和4年10月29日に特任講師実践活動報告会を実施した。老人看護専門看護師1名から、辞退があり、がん看護専門看護師3名で行った。参加者は30名であり好評であった。

③ 令和4年度特任講師選定

教学委員会にて4名（がん看護学3名、老年看護学1名）の特任講師を推薦し、研究科委員会で承認を得た。

(5) 大学院看護学研究科博士前期・後期課程を担当する教員選考

① 博士後期課程を新たに担当する教員の選考

昨年作成した、「大学院看護学研究科博士後期課程を担当する選任教員の選考に関する申し合わせ」に基づいて、博士後期課程専任教員審査委員会（小泉学長、石田研究科長、高柳教授、常盤教授）にて行い博士後期課程研究指導教員2名、博士後期課程研究補助教員1名が承認された。

② 大学院看護学研究科博士前期課程を新たに担当する教員の選考

大学院看護学研究科博士前期課程を担当する専任教員の選考に関する申し合わせ資料に基づき教学委員会にて検討した。博士前期課程研究指導教員2名、博士前期課程研究補助教員1名、授業分担者（単位認定者）1名、科目担当者（実習）1名が承認された。

(6) 論文博士課程における英語の試験について

大学院入学委員会と検討し、博士後期課程の学生募集を令和6年度より8月・1月入試と年2回とすることが入試実施本部会議にて承認された。それに伴う8月入試英語の試験は論文博士を希望する学生の英語試験とすることとし、研究科委員会で承認された。

3. 次年度に向けた課題

- (1) 社会人が学習しやすい環境を整える目的で入学委員会と検討し、博士後期課程においては土曜・日曜日の開講を行う。
- (2) 大学院博士前期課程における助産学教育課程の申請を5月に行う。令和6年度には募集が行えるよう準備する。(ワーキング)
- (3) 大学院博士前期課程助産師コース開設に伴い大学院博士前期課程における前期修了を検討し承認を得る。(ワーキング)
- (4) 博士後期課程の専任教員の審査基準を見直し、作成し後期課程を担当できる教員審査を行う(ワーキング)。

## 令和4年度 入学委員会活動報告

### 1. 委員会構成

委員：◎高柳 智子、○佐々木 三和、石田 和子、中村 義実、高林 知佳子、  
西田 絵美  
事務局：秋山 智章、山崎 潤一

### 2. 活動概要

#### (1) 入学者の選考に関する事項

##### ① 令和5年度大学院入学者の選抜試験の実施

大学院博士前期課程の入学者選抜試験：8月入試(令和4年8月25日)の出願者はいなかった。1月入試(令和5年1月26日)は1名が受験し合格した。その結果、令和5年度の入学者は1名となった。

大学院博士後期課程の入学者選抜試験：令和5年1月26日に実施し1名が受験したが合格者はいなかったため、令和5年度の入学者は得られなかった。

##### ② 令和5年度科目等履修生入学者選抜の実施

令和5年度大学院博士前期課程と大学院博士後期課程の科目等履修生を募集したところ、大学院博士後期課程2名(2科目・1科目)の出願の希望があり、授業担当教員が事前面談を行った。しかし、大学院博士後期課程の入学者選抜試験において合格者が得られず、当該科目は開講しないこととなった。

#### (2) 大学院(博士前期課程・後期課程)入学定員充足と周知への取り組み

##### ① 大学院説明会の実施

入学定員充足と大学院周知目的で、大学院博士前期課程と後期課程ならびに科目等履修に関する大学院説明会を、6月と10月に対面・オンラインの併用にて実施した。

第1回説明会では、大学院修了生2名による大学院での学びに関する体験談、大学院の概要説明・教員紹介・個別面談を行い、参加者は12名であった。第2回説明会は、専門看護師実践活動報告会と同日開催で行い、参加者は7名であった。また、社会人の受験において障壁となりやすい英語について、レクチャーを取り入れ、受験につながった。

##### ② 大学院の周知活動

大学院博士前期課程と後期課程のリーフレットならびに学生募集要項とともに新潟県内外の関係諸機関に配布した。さらに、看護研究交流センター事業に参加した看護職や大学院修了生・在学生への周知活動を強化した。具体的には、学士課程の1年次生から4年次生へのキャリアガイダンスでの説明を行い、大学の同窓会には同窓会ホームページに大学院説明会案内の掲載ならびに大学院進学の相談窓口として2名の修了生の協力を得た。また、看護研究交流センター事業の看護職を対象とした事業の際に、大学院のPRを行うとともに、大学ホームページから大学院の情報にアクセスしやすいよう、大学院バナーを設置した。

##### ③ 大学院博士前期課程の授業体験の取り組み

県内の看護職ならびに看護学生を対象に、チラシ配布やホームページ等による周知を図った。前期受入科目の参加者は3名(3科目)であり、3名ともオンラインでの参加であった。後期受入科目では参加者はなかった。

#### (3) 大学院入試ミスの発生防止に係る取り組み

昨年度に改定を行ったガイドラインとチェックリストを今年度から運用し、入学者選抜における試験問題の出題・採点ミスは発生しなかった。

(4) 予算の執行状況について

令和4年度の予算額 50,400 円の執行額は 36,744 円（第1回大学院説明会 修了生謝金・交通費、大学ホームページ申込フォーム作成）であった。

3. 次年度の課題

次年度の課題は以下のとおりである。

- (1) 引き続き、大学院入学定員充足と受験者の増加に向けて取り組みを行う。ホームページやチラシ、説明会などを通して広く周知を図るとともに、博士後期課程の選抜試験を8月入試と1月入試の2回実施する。令和6年度から開講予定の博士前期課程助産師コースについて積極的に周知を図る。
- (2) 令和6年度から開講予定の博士前期課程 助産師コースにおける学内推薦選抜について、学部生対象に説明会を開催するとともに、推薦選抜試験の準備を進める。加えて、令和6年度から開始予定の学部生の大学院科目等履修生制度についても準備を進め、学部生が在学中から大学院での学びに関心を持てるよう働きかけを強化する。
- (3) 大学院入学者選抜における試験問題の出題・採点ミス防止を徹底して講ずる。